

地域別構想について

2022年10月7日

安芸高田市 企画部 政策企画課

1. 地域別構想の検討方針	
● 地域別構想とは	1頁
● エリア設定基準	3頁
2. 各地域の地域別構想	
● 吉田町	8頁
● 八千代町	14頁
● 美土里町	20頁
● 高宮町	26頁
● 甲田町	32頁
● 向原町	38頁
3. 将来都市構造の見直し	44頁
(参考) 分野別方針 (前回委員会検討事項)	45頁

1. 地域別構想の検討方針 | 地域別構想とは

○ 地域別構想とは、全体構想で示した方針をもとに、それぞれ特性が異なる地域ごとに、より具体的なまちづくりの方針を示すものです。

全体構想（本市全域に関する方針）

■ まちづくりの基本理念

未来へ 続くまち 安芸高田

■ 基本目標・将来都市構造

**居住や施設が
集約された
持続可能なまちづくり**

居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。

**だれもが安心して
暮らせるリスクに
強いまちづくり**

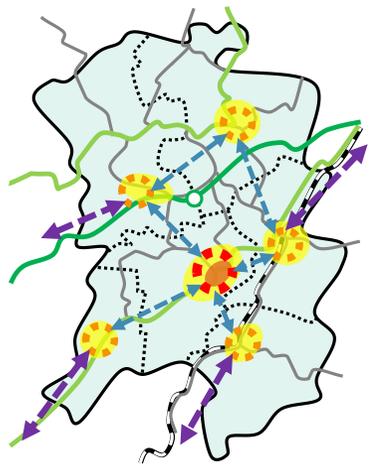
災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。

**地域資源を活かした
活力あるまちづくり**

地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。

**目的地へ
アクセスしやすい
やさしいまちづくり**

誰もが都市機能等の目的地へアクセスしやすい環境の整備を図る。



地域ごとに具体化

地域別構想

吉田町の地域別構想

八千代町の地域別構想

美土里町の地域別構想

高宮町の地域別構想

甲田町の地域別構想

向原町の地域別構想

1. 地域別構想の検討方針 | 地域別構想とは

○本市における地域別構想は、合併前の旧6町別に設定します。

美土里町

	2020年	2045年推計
人口	2,337人	1,568人
高齢化率	43.9%	47.0%
人口密度	18.96人/km ²	12.72人/km ²
面積	123.25km ²	

高宮町

	2020年	2045年推計
人口	2,857人	1,834人
高齢化率	49.8%	48.3%
人口密度	22.96人/km ²	14.74人/km ²
面積	124.46km ²	

吉田町

	2020年	2045年推計
人口	9,686人	7,898人
高齢化率	34.1%	42.9%
人口密度	114.21人/km ²	93.13人/km ²
面積	84.81km ² (うち都市計画区域12.53km ²)	

甲田町

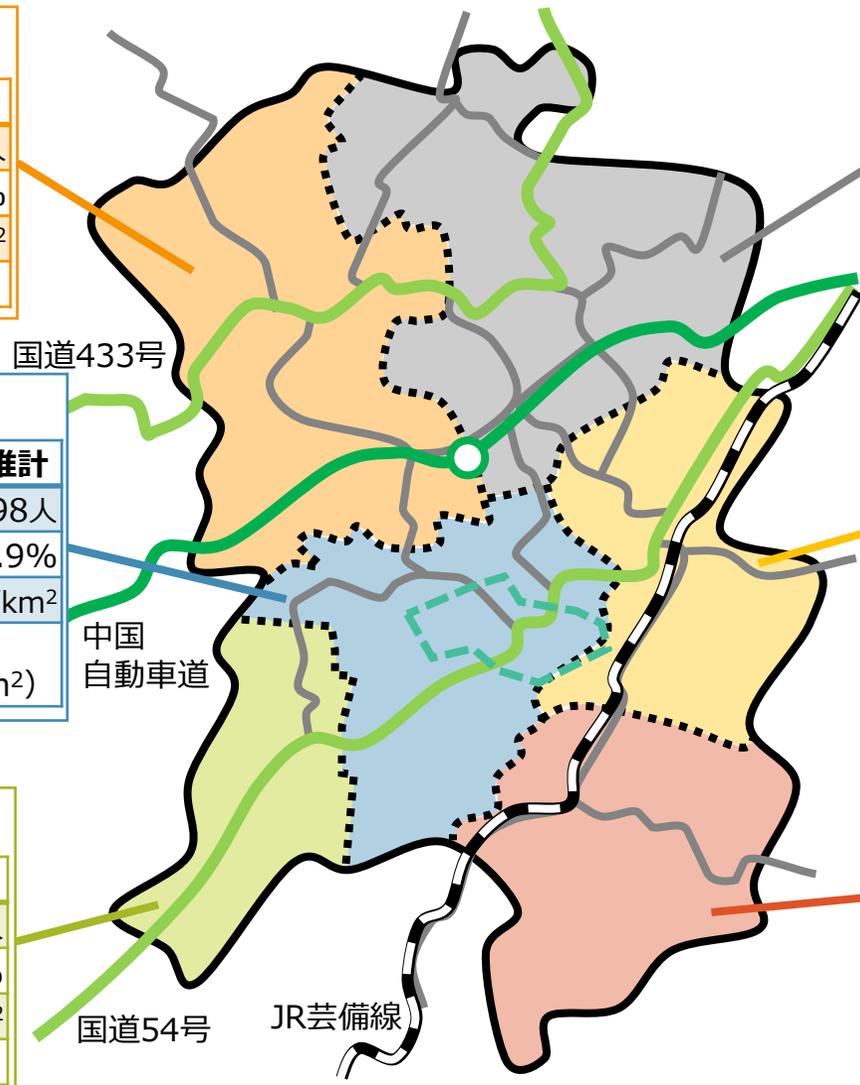
	2020年	2045年推計
人口	4,454人	3,201人
高齢化率	43.3%	46.1%
人口密度	61.07人/km ²	43.89人/km ²
面積	72.93km ²	

八千代町

	2020年	2045年推計
人口	3,688人	2,381人
高齢化率	49.0%	46.5%
人口密度	72.89人/km ²	47.06人/km ²
面積	50.60km ²	

向原町

	2020年	2045年推計
人口	3,426人	2,349人
高齢化率	47.4%	48.5%
人口密度	41.72人/km ²	28.60人/km ²
面積	82.12km ²	



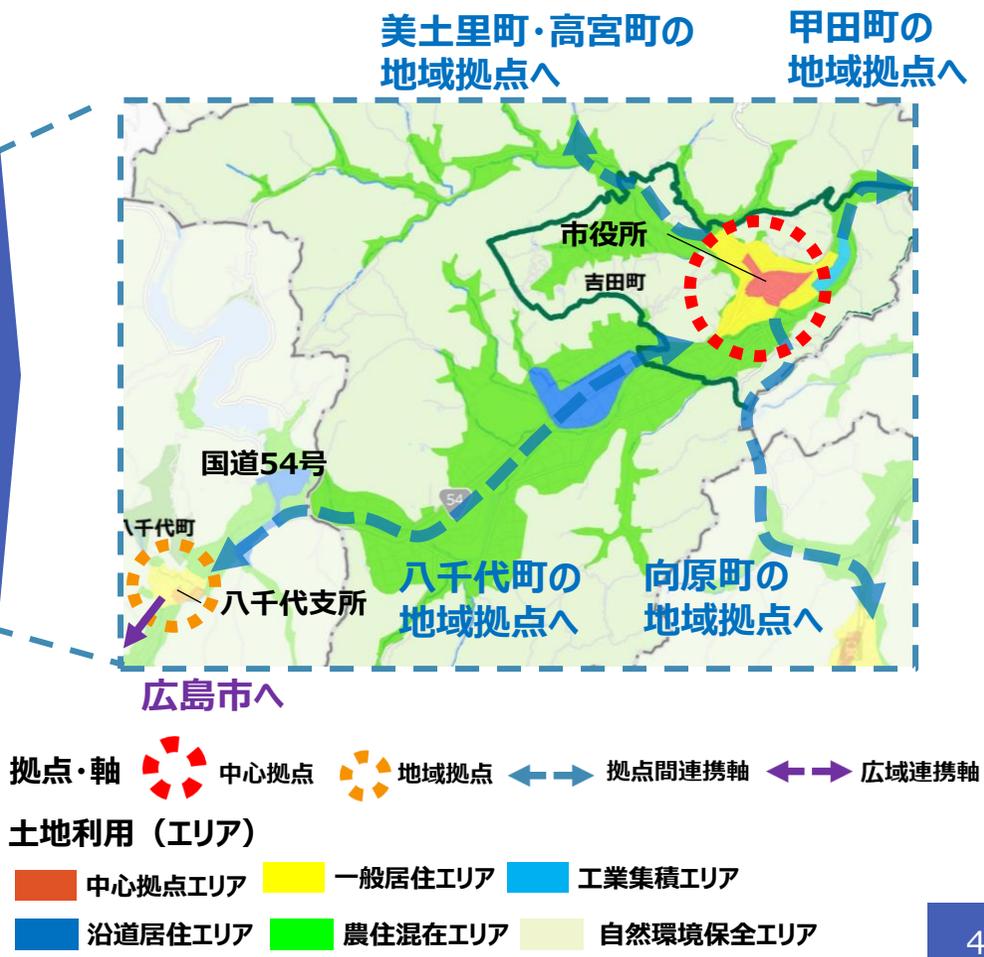
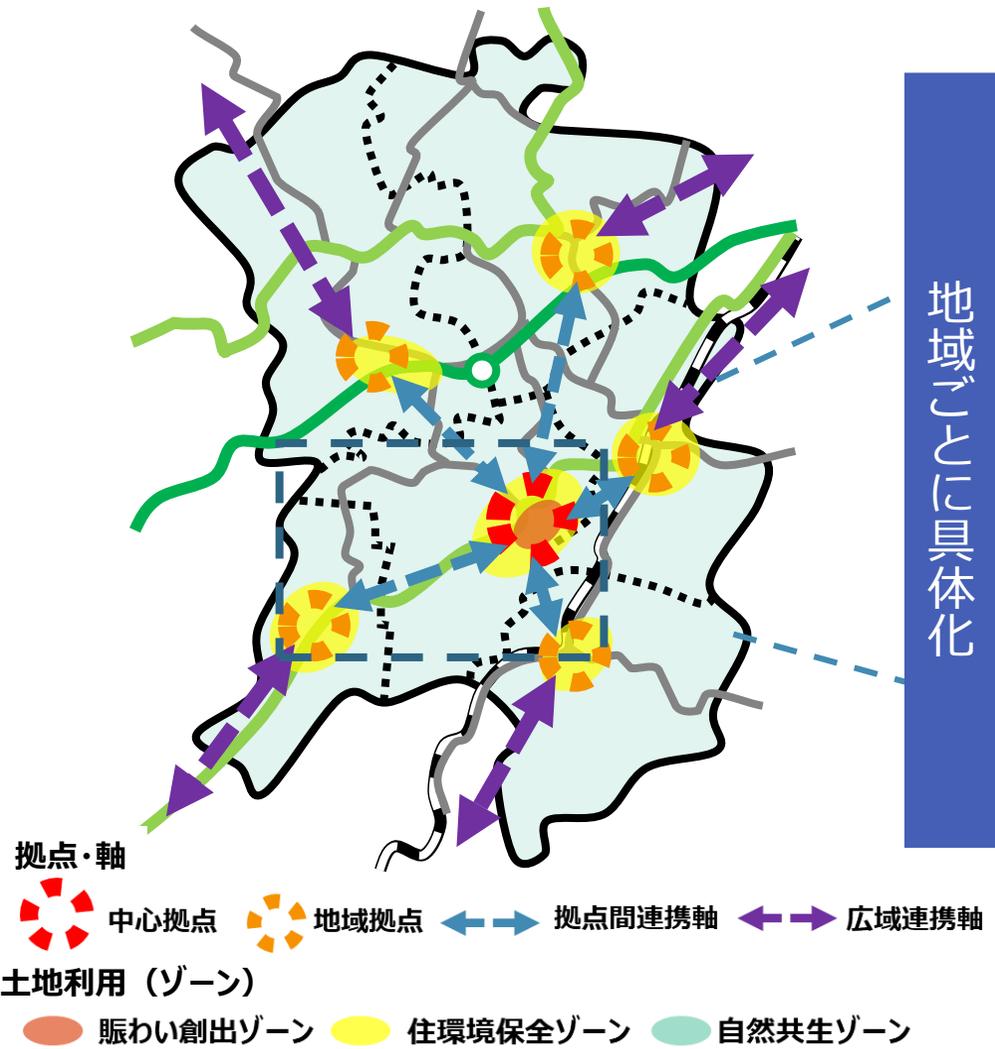
1. 地域別構想の検討方針 | エリア設定基準

○地域別構想では、地域別の現状・課題を踏まえ、全体方針で検討した「ゾーン」設定に対応する「エリア」の設定について検討します。

全体構想におけるゾーン設定

地域別構想におけるエリア設定

地域ごとに具体化



1. 地域別構想の検討方針 | エリア設定基準

- 各地域内における地区別の位置づけを明確化するため、20年後の地域の目指す姿を見据えた上で、全体方針で検討したゾーン設定を細分化する形で、以下の7種類のエリアを設定します。
- 吉田町のみを設定しているゾーンである「賑わい創出ゾーン」は、「中心拠点エリア」に区分します。

賑わい創出ゾーン

エリア名	20年後に目指す姿	計画期間の取組方針	エリア設定基準
中心拠点エリア (吉田町のみ)	商業・文化・行政施設等、本市全体として必要な拠点機能を充実させ、高密な市街地の形成を図る	左記の中心拠点機能について、立地適正化計画の誘導施設として位置づけ、エリア内への維持・誘導を推進する	立地適正化計画で設定する都市機能誘導区域の範囲を中心に設定する

中心拠点エリアのイメージ



1. 地域別構想の検討方針 | エリア設定基準

- 各町の支所周辺に設定している「住環境保全ゾーン」には、以下の3種類のエリアに区分します。
- このうち、工場集積エリアは、一部自然共生ゾーンにも設定します。

住環境保全ゾーン

エリア名	20年後に目指す姿	計画期間の取組方針	エリア設定基準
地域拠点エリア	地域住民の日常生活に必要な施設等の集約・維持を図る	スーパーや病院、支所などのエリア内への維持・集約、および公共結節機能の充実を図る	各支所を中心に、日常的な買い物・医療等の施設が集積している範囲で設定する
一般居住エリア	各エリア内における現状と同程度の人口密度の維持を図る	市内外からの移住希望者等に対し、エリア内への居住を誘導する	地域拠点エリア周辺（概ね2km圏内※）の、戸建て住宅等が集積している範囲で設定する
工場集積エリア	市内の工場をエリア内に集約し、地域産業の維持・強化を図るとともに、エリア外での住工混在を防ぐ	工場の新設・移転を検討する事業者に対し、エリア内への新設・移転を誘導する	工業専用地域やIC周辺の、既に工場が集積しており、他機能を有する施設との混在が少ない範囲で設定する

※メッシュ別将来人口推計を活用した分析の展開（国土交通省）より、生活関連サービスの到達圏域とされている距離を設定

地域拠点エリアのイメージ



一般居住エリアのイメージ



工場集積エリアのイメージ



1. 地域別構想の検討方針 | エリア設定基準

○各町の支所周辺以外に設定する「自然共生ゾーン」、以下の4種類のエリアに区分します。

自然共生ゾーン

エリア名	20年後に目指す姿	計画期間の取組方針	エリア設定基準
工場集積エリア	市内の工場をエリア内に集約し、地域産業の維持・強化を図るとともに、エリア外での住工混在を防ぐ	工場の新設・移転を検討する事業者に対し、エリア内への新設・移転を誘導する	工業専用地域やIC周辺の、既に工場が集積しており、他機能を有する施設との混在が少ない範囲で設定する
沿道居住エリア	小規模な商店などの日常生活機能を維持する	居住環境の整備に加え、幹線道路を通過する車利用者等の立ち寄り需要を取り込みながら、沿道施設の利用を促進する	賑わい創出ゾーンや住環境保全ゾーンには含まれないが、集客施設や住居の集積がみられる範囲で設定する
農住混在エリア	人口減少・高齢化の中でも、住民同士が互いに助け合いながら生活できる環境づくりを目指す	定住を希望する住民が住み続けられるよう、地域コミュニティの活性化等を支援する	上記エリア以外で、建物用地もしくは農用地となっているエリアに設定する
自然環境保全エリア	安芸高田市の強みである良好な自然環境の保全を図る	観光利用の促進や、山林保全の担い手の確保等を行う	山林などの非可住地で設定する

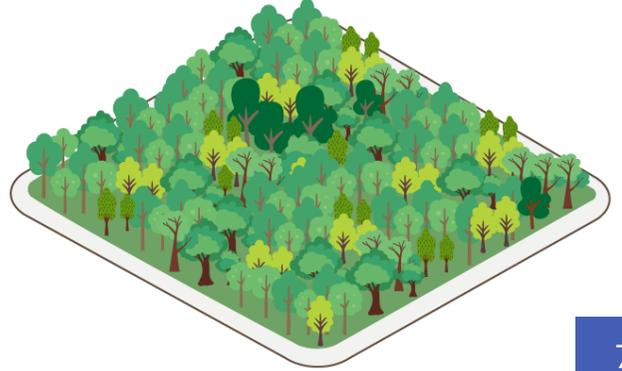
沿道居住エリアのイメージ



農住混在エリアのイメージ



自然環境保全エリアのイメージ



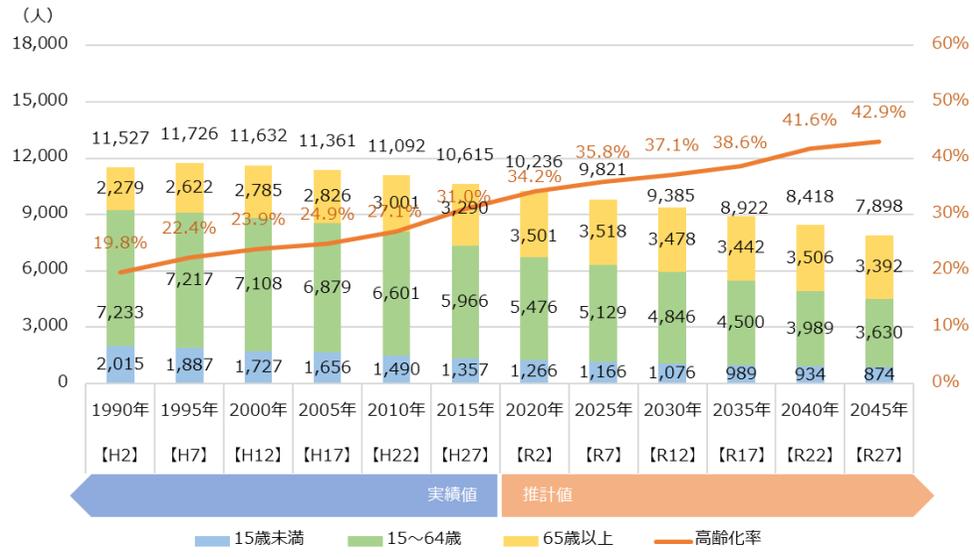
2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

- 本市の中心に位置する吉田町は、行政や福祉、教育・文化、観光施設などが集積しています。
- 町内の人口は1995年以降緩やかな減少傾向にあり、高齢化率は増加する見込みとなっています。
- 建物用地は用途地域内を中心に位置していますが、都市計画区域外の川沿い等にも広がっています。

■ 地域資源

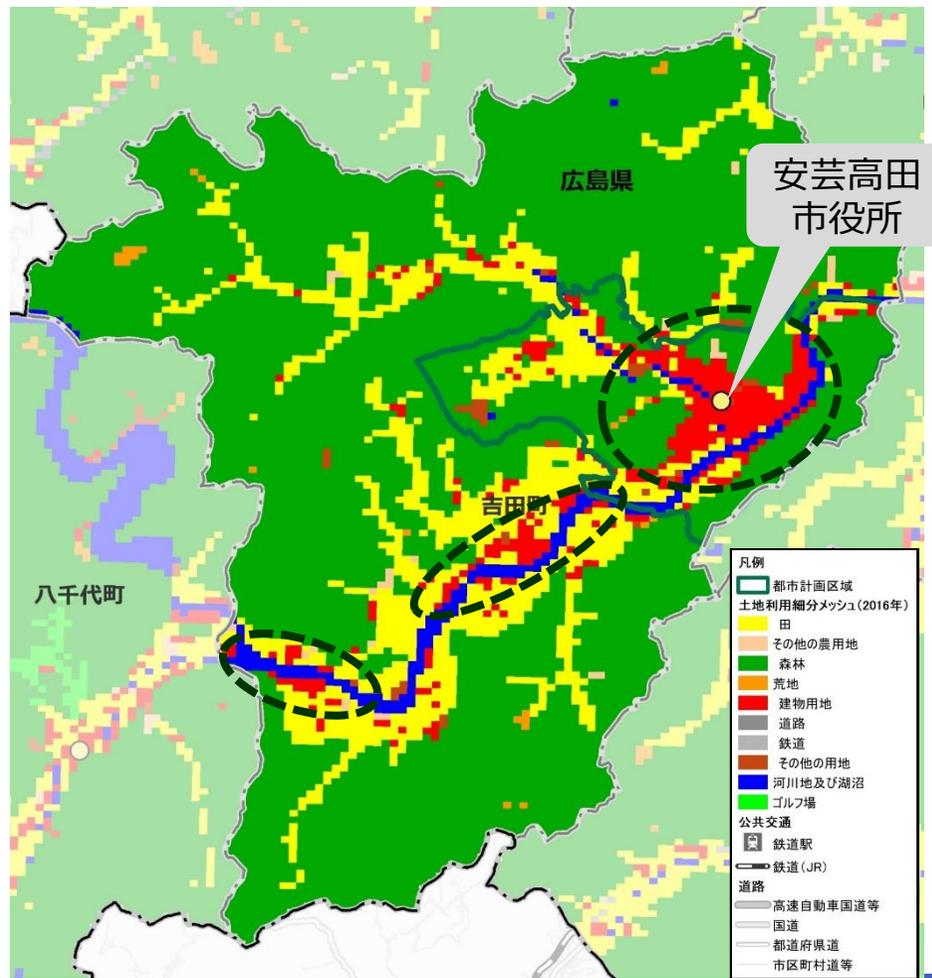
- 市の中央部に位置し、他の各町と結ぶ道路網が充実。
- 市役所周辺には、病院やスーパーなどの拠点機能が多く立地するほか、国道54号沿いを中心に各種施設が立地。
- 他町に比べ、買い物や通院などの日常生活での移動が町内で完結する割合が高い。
- 他町に比べ、スーパー等の撤退を懸念する声が多い。

■ 人口・高齢化率



出典：(2015年以前) 国勢調査
(2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

■ 土地利用



0 1 2 4 KM

2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1995年以降減少傾向にあり、2045年にはピーク時の約7割に減少見込みであるほか、高齢化率は40%を超える見込みである。 ● 特に都市計画区域内では高齢化率が上昇傾向にある一方で、将来的に人口密度の低下も見込まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の上昇、都市計画区域内における人口密度の低下が見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画区域を中心に建物用地が広がっている。ただし、都市計画区域の外側においても川沿いなどに建物用地が広がっている。 ● また、町別の空き家数の割合を見ると、吉田町は市全体の約21%と多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画区域外の人口密度が高く、建物用地も広がっていることから、都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。 ● また、空き家を有効活用した居住の誘導を図る必要がある。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、広島市や吉田町の中心部、千代田IC方面へ向かう広域路線バス、お太助ワゴン、もやい便、とろっこ便も利用可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の中心拠点として地域拠点への良好なアクセス環境を経済的かつ効率的に維持・充実することが求められる。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画区域内において、高齢人口密度の高いエリアが洪水浸水想定区域に入っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画区域内を中心に、特に江の川や多治比川における治水対策として、ハード・ソフトの両面からの対策を講じる必要がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年に道の駅「三矢の里あきたかた」がオープンしたほか、多くの観光・文化施設等が立地している。 ● 住民1人当たりの道路延長は県平均の約2.3倍、橋梁延長は約4.3倍となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向けて、町内の観光資源を有効に活用していく必要がある。 ● 今後の人口減少により、インフラ維持費を含めたまちの維持に必要なコストの支払いが困難となる可能性がある。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の買い物目的の移動は町内移動率96.2%となっている。 ● 一方、買回り品を買うための移動の場合、町内移動率は44.8%と約半減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買回り品の購入に必要な都市施設の充実や、市内外の都市施設を利用するためのアクセス環境の持続的な確保が必要である。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、スーパーの撤退を懸念する住民が他の町に比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化の中で生活利便性を維持するために、商業施設周辺の居住を促進する必要がある。

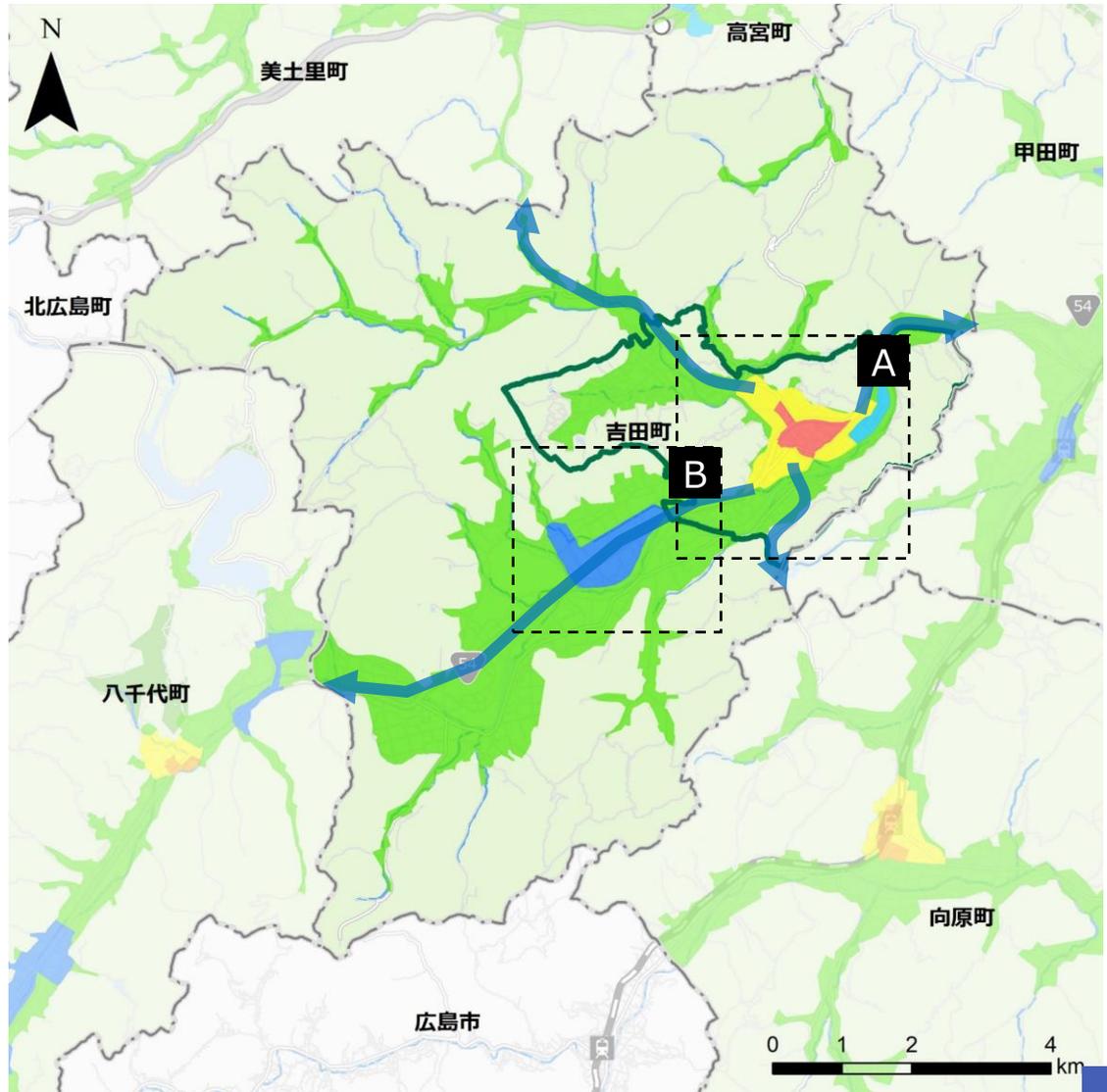
2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

○地域概況等を踏まえ、吉田町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

**充実した都市機能を活かした
魅力ある都市活動を
生み出すまちづくり**

■ 地域の将来構造

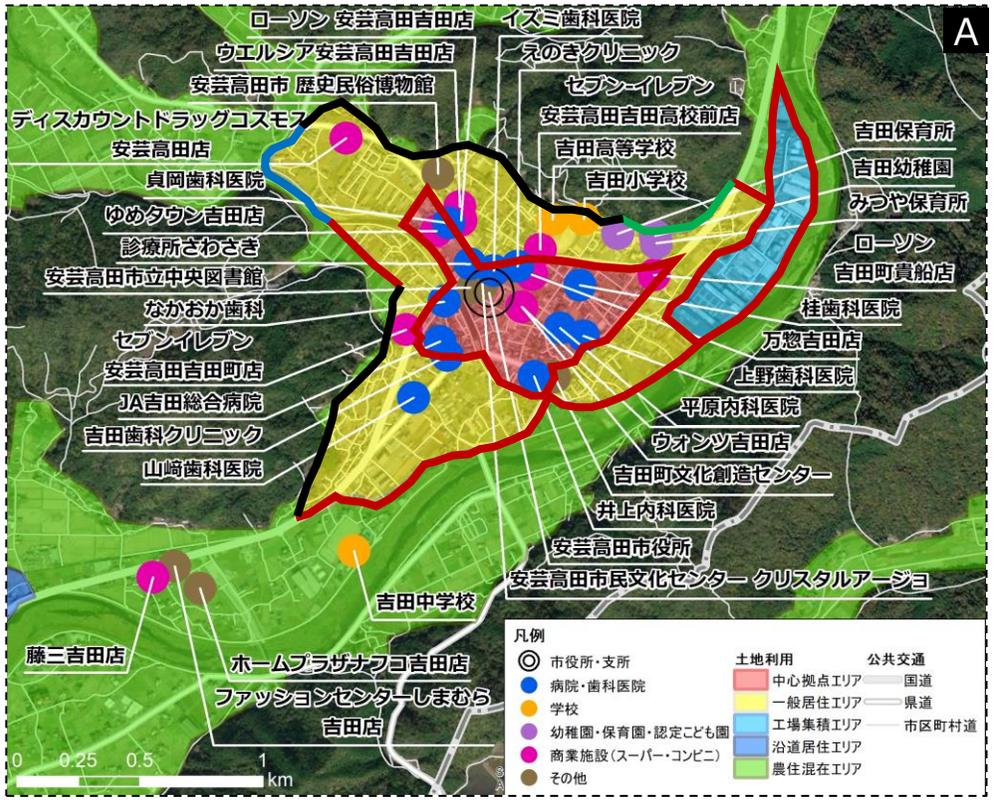


凡例		土地利用	公共交通	
	河川			駅
	ゴルフ場			鉄道
				IC
				高速道路
				国道
				県道
				市区町村道
				拠点間連携軸
				広域連携軸

2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■ 市役所周辺



■ 山手地区・川本地区



※吉田町の一般居住エリアの範囲については、立地適正化計画で定める居住誘導区域の範囲にあわせて見直しの可能性があります。

境界線の位置

- 河川
- 道路
- 森林
- その他 (周辺道路からの延長、並行道路から一定距離等)

2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

- 土地利用においては、安芸高田市役所周辺の賑わい創出ゾーンを中心拠点エリアとして設定し、その周辺の、概ね用途地域が指定されている範囲（住環境保全ゾーン）を一般居住エリア・工場集積エリアとして設定します。
- その他のエリアは自然共生ゾーンとして、国道54号沿道の居住環境や農村集落など、各エリアの現況に応じた既存の環境を保全していきます。

■ 土地利用の方針

① 賑わい創出ゾーン

● 中心拠点エリア

・安芸高田市役所を中心に行政、文化、教育、商業等の都市機能がコンパクトに集約された都市構造であり、今後も維持を図ります。



② 住環境保全ゾーン

● 一般居住エリア

・中心拠点エリア周辺エリアでは、別途立地適正化計画で検討する居住誘導区域を中心に、良好な住環境の形成を図ります。



● 工業集積エリア

・江の川沿いには鉄鋼業を中心とした工場が多く立地しており、工業の象徴的エリアとして位置付け、住工分離を図ります。



③ 自然共生ゾーン

● 沿道居住エリア

・国道54号沿道（山手地区・川本地区）においては、住宅や道の駅等の施設が相当規模で立地している環境を活かし、快適な居住環境を目指します。



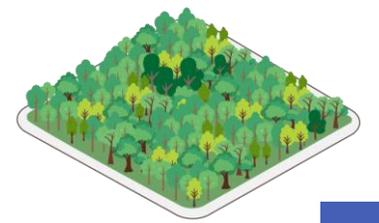
● 農住混在エリア

・竹原地区、桂地区、上入江地区、相合地区、多治比地区などの農村集落においては、農業施策との連携を図りながら生活環境の維持・向上に努めます。



● 自然環境保全エリア

・郡山鳥獣保護区をはじめとした町内の山林地帯においては、関係部局や地元団体等と連携し、有害鳥獣対策等を行いながら、良好な自然環境や生態系の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 吉田町

- 交通においては、既存の道路網を生かしつつ、公共交通効率化を図ります。
- 都市環境・景観においては、公園や観光資源の来訪客誘致を促進する方針とします。
- 防災については、江の川や多治比川に対する水害対策を中心に、国・県等と連携して推進していきます。
- 地域活性化に向けた取組として、拠点機能の充実・雇用促進や地域団体による取組の支援を推進します。

■ 交通の方針

① 道路網

- ・広域連携軸や地域間連携軸を担う国道54号を中心に、近隣地域や市街地部と山間部との連絡性を確保するため、幹線道路などの機能整備・維持を図ります。

② 公共交通

- ・広域路線バスやお太助バス・お太助ワゴンと、町外のJR芸備線・高速バスなどの乗り継ぎを含めた利便性を向上させ、市内外の拠点間連携を推進します。

■ 都市環境・景観の方針

- ・安芸高田市サッカー公園や郡山公園等が立地しており、郡山公園は四季によって様々な楽しみ方が可能な公園となっています。これらの施設について、市内外からの来訪客の誘致を促進します。
- ・また、民俗博物館や郡山城跡などの文化的な観光資源も活用し、上述の施設を含めた観光利用を促進します。

■ 防災の方針

① 水害

- ・令和3年度に発生した大雨災害での被害状況を踏まえ、大雨による洪水・内水氾濫等へのハード・ソフト両面からの対策を検討します。
- ・特に、都市計画区域内での対応については、立地適正化計画の防災指針等も踏まえて対応を検討します。

② 土砂災害

- ・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域周辺の周辺において、災害リスクの低い場所への移転促進や災害リスクの周知等の取組を推進します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

- ・本市の中心部として、市内外から人や物が集まるような拠点機能の充実や、工場集積エリア・中心拠点エリアをはじめとした雇用の場の創出を図ります。
- ・また、地域振興会や商工会による活動支援などを通し、まちの活性化に向けた取組を支援します。

2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

- 市の南西部に位置する八千代町は、生活行動等において、市内でも特に広島市への移動が多くなっています。
- 人口は1995年頃をピークに減少傾向にあり、2045年にはピーク時に比べ約5割減少する見込みです。
- 建物用地は国道54号沿いを中心に広がっていますが、支所周辺から離れた町南部でより広範囲に分布しています。

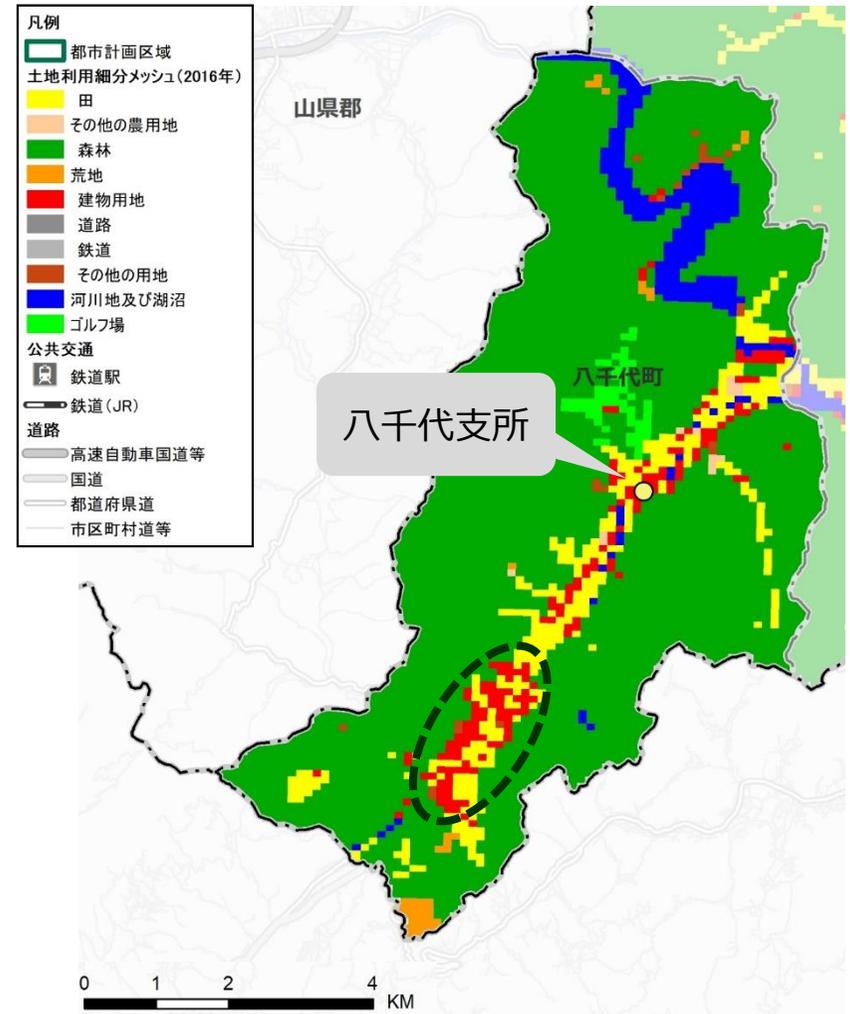
■ 地域特性

- 市の南西部であり、広島市と吉田町の間地点に位置。
- 土師ダム周辺の自然環境を活かし、スポーツランド、サイクリングターミナル等の観光・スポーツ施設が立地。
- 日常的な買い物・通院等を含め、多くの生活行動が広島市内の施設に依存している。
- 他町に比べ、公共交通の利便性低下を懸念する声が多い。

■ 人口・高齢化率



■ 土地利用



出典：(2015年以前) 国勢調査
(2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1995年以降減少傾向にあり、2045年にはピーク時の約5割に減少見込みであるほか、高齢化率は45%以上で高止まりが見込まれる。 ● 特に支所北東部のエリア（勝田地区）では、高齢化率6割以上のエリアも見られるほか、将来的に人口密度が大きく低下する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の高止まりが見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地は主に八千代支所から離れた南側のエリアに広がっているほか、都市施設が支所周辺以外にも点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、広島市や吉田町の中心部、千代田IC方面へ向かう広域路線バスのほか、お太助ワゴンも利用可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢人口密度の高いエリアの一部が、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域と重なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者をはじめとした住民が安心して暮らせる居住環境への誘導が必要である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の観光資源である土師ダム周辺や八千代町産直市場では、コロナ禍前の2017年から2019年にかけて利用者が増加している。 ● 1人当たりの道路・橋梁延長や下水道処理面積の値は市全体の平均値より小さいが、2010年から2045年にかけて約2倍になる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向けて、町内の観光資源を活用した交流人口の確保が有効と考えられる。 ● 今後の人口減少により、インフラ維持費を含めたまちの維持に必要なコストの支払いが困難となる可能性がある。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活行動を市外の施設に依存する割合が他地域に比べて高い。 ● 特に、日常的な買い物目的の移動であっても、町内移動率は13.6%にとどまっており、市外への移動率が44.8%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な都市施設の維持や、市内外の都市施設を利用するためのアクセス環境の持続的な確保が必要である。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 居住環境への満足度を「不満である」または「やや不満である」とする住民の割合が34.4%と、6町の中で一番満足度が低い。 ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、公共交通の利便性低下を懸念する住民が他の町に比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 居住環境に対する住民の不満を低減し、住民が継続的に住みたいと思える都市環境への改善が必要である。

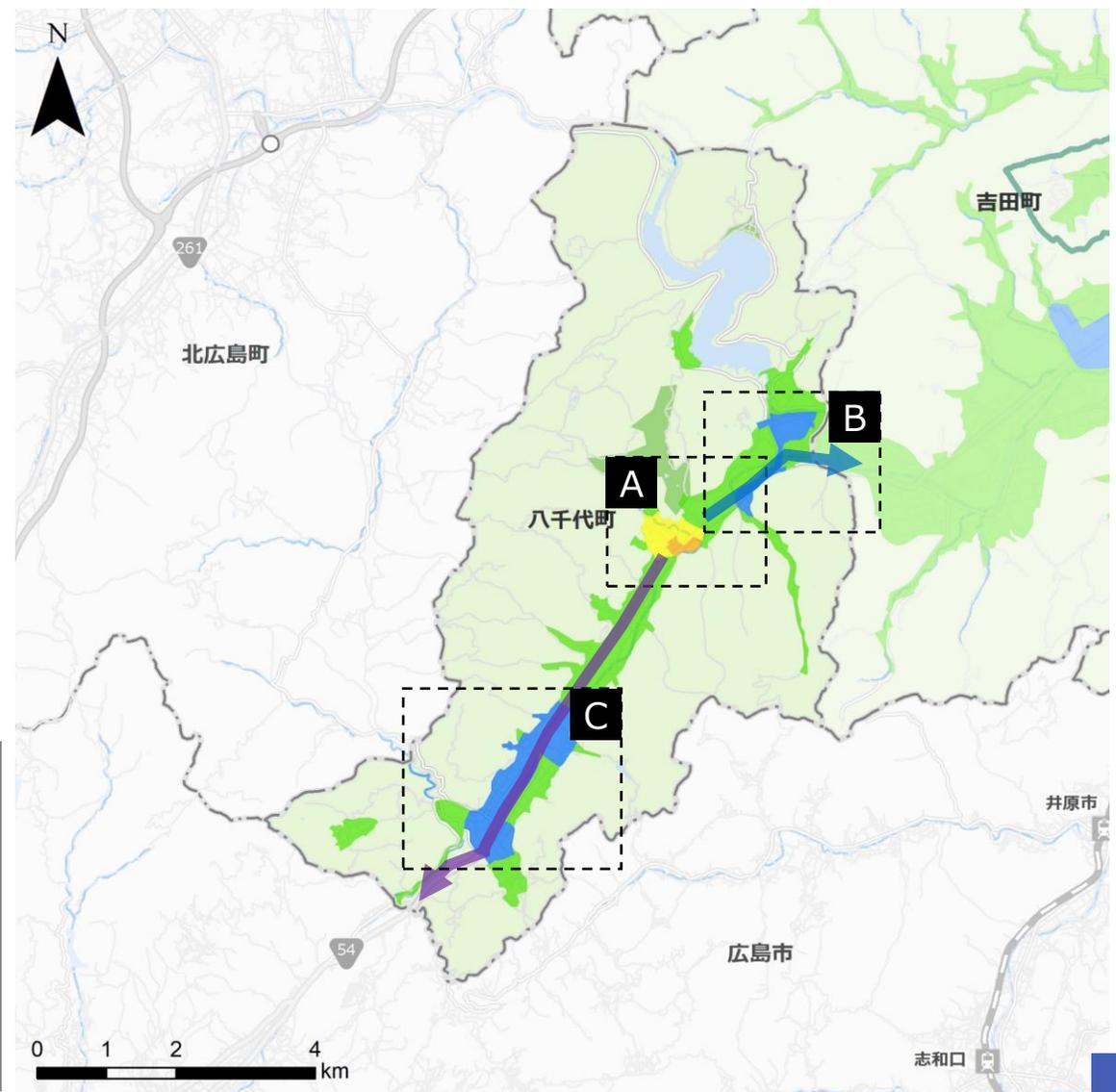
2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

○以上の現状を踏まえ、八千代町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

**市内外からの交流を生む
自然と調和したまちづくり**

■ 地域の将来構造

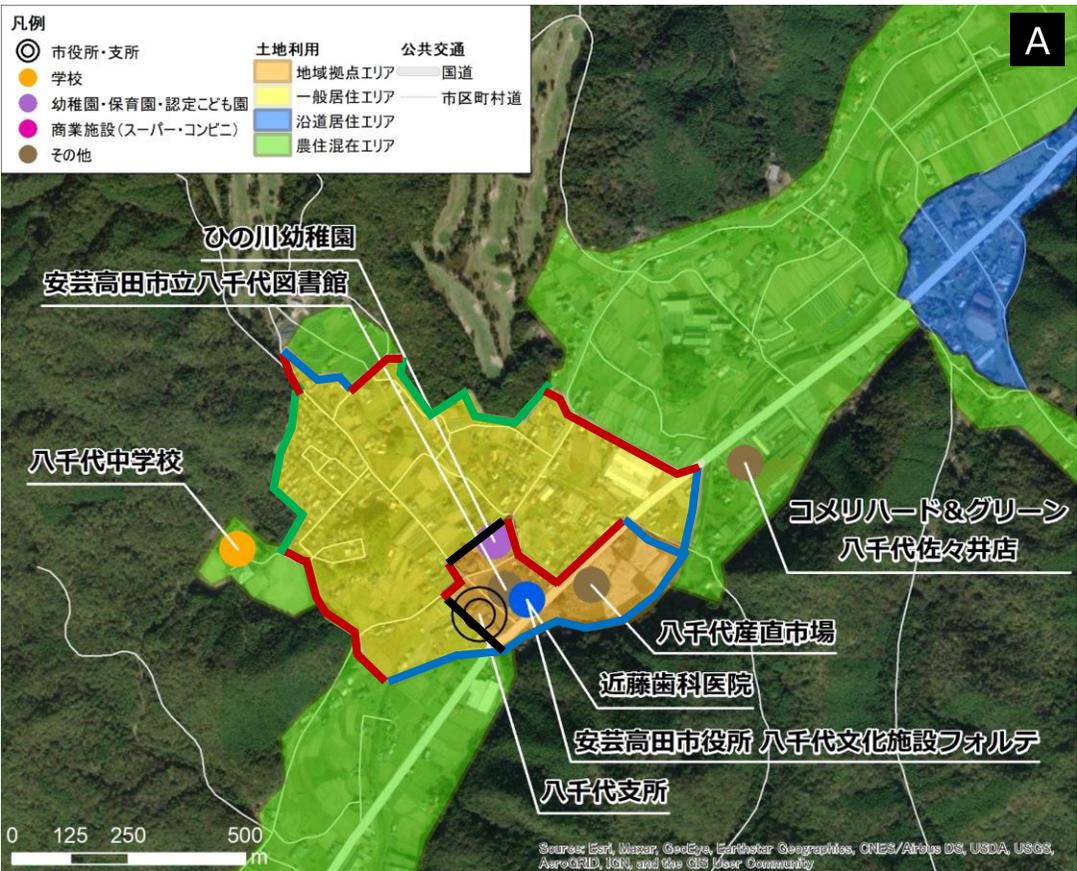


凡例	土地利用	公共交通
河川	中心拠点エリア	駅
ゴルフ場	地域拠点エリア	IC
	一般居住エリア	高速道路
	工場集積エリア	国道
	沿道居住エリア	県道
	農住混在エリア	市区町村道
	自然環境保全エリア	
	↔ 拠点間連携軸	
	↔ 広域連携軸	

2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

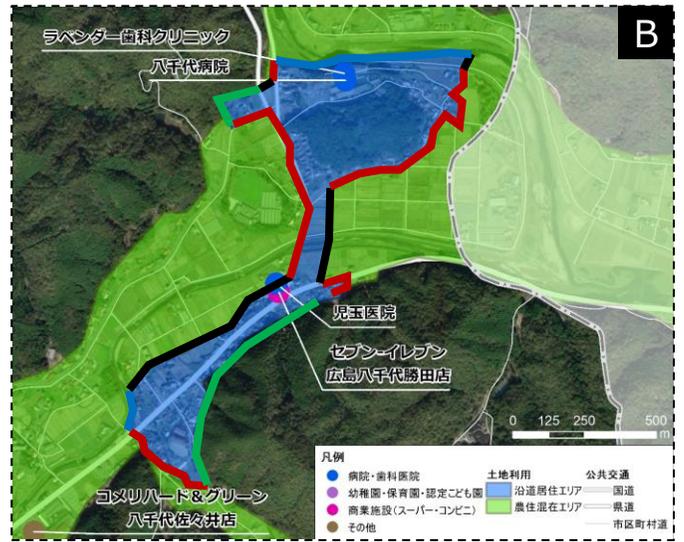
○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■ 八千代支所周辺



- 境界線の位置**
- 河川
 - 道路
 - 森林
 - その他 (周辺道路からの延長、並行道路から一定距離等)

■ 勝田地区



■ 上根地区



2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

○土地利用においては、国道54号沿道を中心に、現況の都市構造に応じて地域拠点エリア・一般居住エリア・沿道居住エリアを設定し、良好なアクセス環境を活かした居住環境の維持を図ります。

■土地利用の方針

①住環境保全ゾーン

●地域拠点エリア

・八千代支所を中心に、行政、文化、教育、商業等の都市機能がコンパクトに集約された都市構造の維持を図ります。



●一般居住エリア

・地域拠点エリア周辺（佐々井地区）では、町の中心地まで歩いて向かうことができる低密な居住環境の保全を図ります。



②自然共生ゾーン

●沿道居住エリア

・国道54号と県道5号の交差点周辺（勝田地区）では、幹線道路の沿道を中心とした交通アクセスのよい居住環境の保全を図ります。

・町南部（上根地区）においては、広島市方面も含めた充実したアクセス環境を活かし、快適な居住環境の形成を目指します。



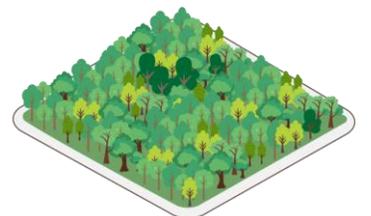
●農住混在エリア

・下根地区などの農村集落においては、農業施策との連携を図りながら生活環境の維持・向上に努めます。



●自然環境保全エリア

・土師ダム周辺をはじめとした江の川の流域においては、既存の自然環境の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 八千代町

- 交通においては、吉田町や広島市とのアクセス環境の強化を図ります。
- 都市環境・景観においては、土師ダムをはじめとした地域の自然資源等を活かした観光利用を推進します。
- 防災においては、居住環境と災害リスクが近接していることを踏まえ、ハード・ソフト両面で対策を検討します。
- 地域活性化に向けては、居住人口・交流人口の双方を増加させるための取組を推進します。

■ 交通の方針

① 道路網

- ・広域連携軸や地域間連携軸を担う国道54号を中心に、近隣地域や市街地部と山間部との連絡性を確保するため、幹線道路などの機能整備・拡充を図ります。

② 公共交通

- ・吉田町と広島市を結ぶ上根・吉田線などの広域路線バスをより有効に活用できるよう、主要施設への乗り入れ等による交通結節点の機能強化を検討します。
- ・また、地域内のデマンド交通であるお太助ワゴンも活用しつつ、自家用車による移動が困難な住民でも不便なく生活できる公共交通体系の維持を目指します。

■ 都市環境・景観の方針

- ・土師ダム周辺のスポーツランドやサイクリングターミナル、八千代カントリークラブ等の施設を活用し、スポーツ拠点として市内外からの来訪客の誘致を促進します。
- ・また、土師ダム湖畔の眺望を楽しみながらの散策やレンタサイクル等のアクティビティを活用した観光利用を促進します。

■ 防災の方針

① 水害

- ・簸ノ川に隣接するの国道54号沿道に既存の建物用地が広がっていることから、洪水対策を中心に検討していきます。
- ・ハード面での対策に加え、ハザードマップ等を活用した災害リスクの周知や避難訓練の実施など、ソフト面での災害対策についても、地域の関係者等と連携して充実を図ります。

② 土砂災害

- ・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が既存の建物用地に近接していることから、災害リスクの低い場所への移転促進や災害リスクの周知等の取組を推進します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

- ・広島市に近い地理的環境を活かし、都心部までアクセス可能な田園地域として地域外からの移住者の確保を図ります。
- ・また、土師ダムをはじめとした観光客や、国道54号を利用する通過交通の立ち寄り需要などへの対応を通して、交流人口も巻き込んだ地域活性化を推進します。

2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

- 市の北西部に位置する美土里町は、自然環境の中に道の駅や史跡・文化財等の観光資源が点在しています。
- 人口減少が進行しており、2045年には約1,500人にまで減少すると見込まれています。
- 建物用地は、支所や高田ICの周辺、国道433号沿いなどに点在しています。

■ 地域資源

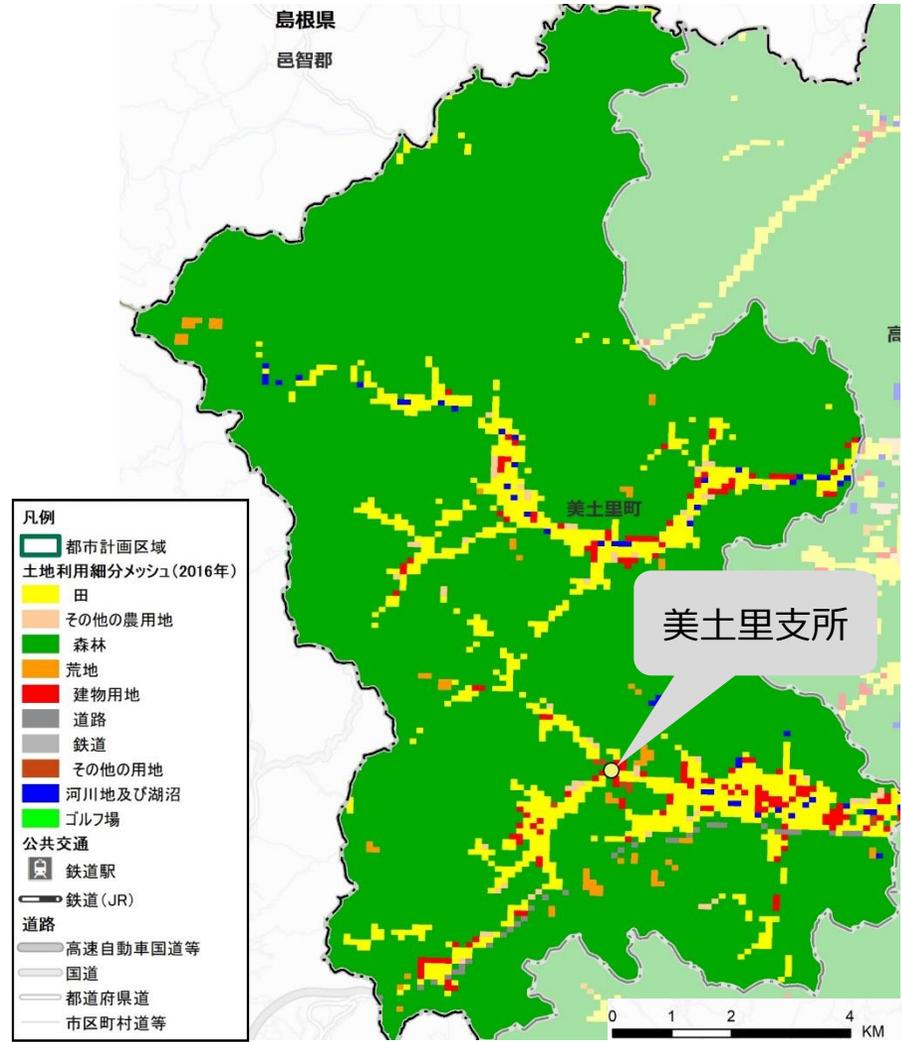
- 市の北西部に位置し、南東端には高田ICが立地。
- 神楽門前湯治村や道の駅北の関宿・安芸高田、松尾城跡をはじめとした史跡・文化財等の観光資源が点在。
- 生活行動については、市内でも特に吉田町内の施設への依存度が高い。
- 他町に比べ、地域コミュニティの維持を懸念する声が多い。

■ 人口・高齢化率



出典：(2015年以前) 国勢調査
(2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

■ 土地利用



2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1990年から減少の一途をたどり、今後も減少見込みであるほか、高齢化率は40%以上で高止まりが見込まれる。 ● 町内の広範囲に居住地が分散しており、2045年には、町内全域で人口密度が20人/ha未満となると予測されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の高止まりが見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地が集約されておらず、森林地帯を除く広範囲に点在している。 ● 都市機能については、行政、医療、商業、保育などの多くの機能が八千代支所周辺に集約されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、美土里支所を拠点にお太助バスが運行されているほか、端末交通はお太助ワゴンや友愛とろっこ便によりカバーされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市機能が集約されている支所周辺を中心に、良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 他町に比べ、災害リスクの高いエリアと居住エリアは分離されているが、一部災害リスクの高いエリアへの居住がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害リスクの低いエリアへの居住誘導による安心・安全なまちづくりが求められる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の観光資源である神楽門前湯治村や道の駅「北の関宿安芸高田」では、コロナ禍前の2017年から2019年にかけて利用者が減少している。 ● 1人当たりの道路・橋梁延長は市全体の平均値の2倍以上となっている。 ● 下水道は農業用のみが整備されており、処理面積は市内で最も小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統芸能の伝承や地域活性化に向け、町内の観光資源のPRが必要である。 ● インフラ施設を将来にわたって維持できるよう、効率的な維持管理のための施策検討が必要である。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・通院等の多くの移動需要が、吉田町内の施設で賄われている。 ● 特に、図書館・文化ホール等の利用については、町内施設利用者の2倍以上が吉田町の施設を利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内に必要な都市機能と吉田町などの他地域で対応可能な都市機能の棲み分けによる、必要機能を維持するための適正配置の検討が必要である。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、地域コミュニティの維持ができなくなることを懸念する住民が他の町に比べて多い。 ● まちづくりの方針として、農林水産業の振興や環境への配慮を重視する割合が、他の町に比べて高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農林水産業や地域コミュニティの維持・充実のため、人口密度を一定程度に維持する必要がある。 ● また、町の豊かな自然環境に配慮したまちづくりの推進が求められる。

2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

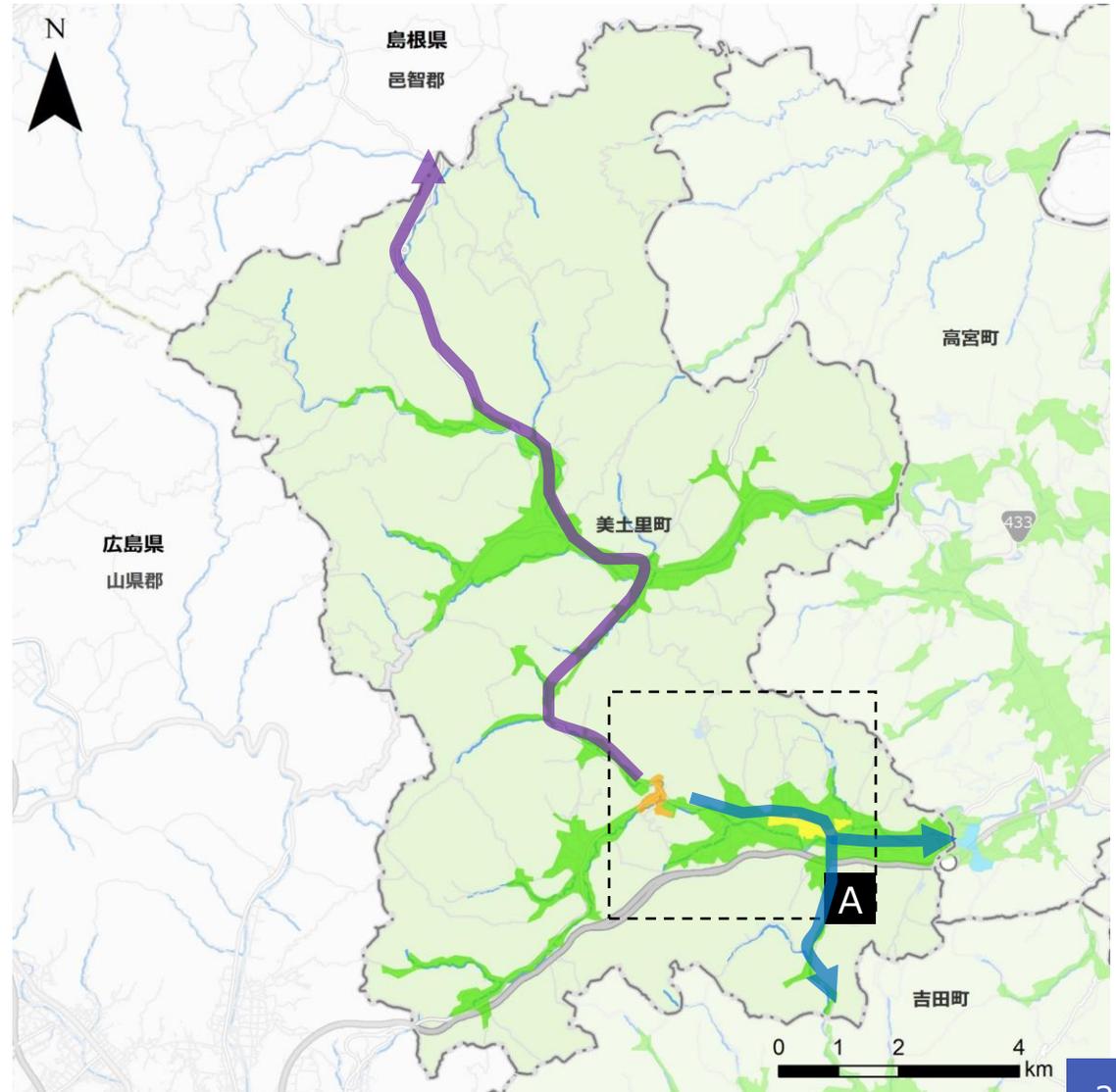
○地域概況等を踏まえ、美土里町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

自然と居住環境が共存した
住みたくなるまちづくり

■ 地域の将来構造

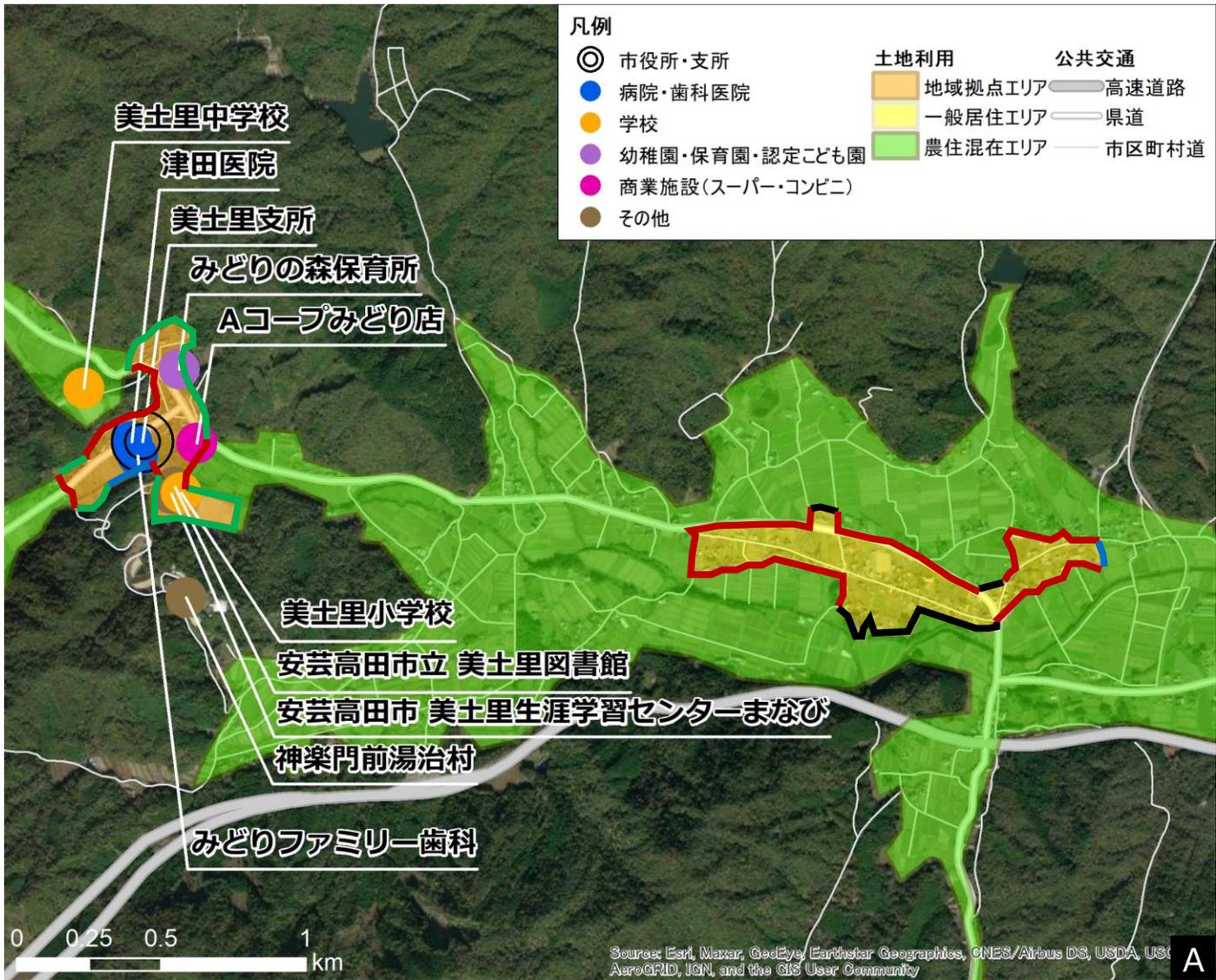
凡例	土地利用	公共交通
河川	中心拠点エリア	駅
ゴルフ場	地域拠点エリア	鉄道
	一般居住エリア	IC
	工場集積エリア	高速道路
	沿道居住エリア	国道
	農住混在エリア	県道
	自然環境保全エリア	市区町村道
	拠点間連携軸	
	広域連携軸	



2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■美土里支所周辺



2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

- 土地利用においては、日常生活に必要な都市機能を町内に維持していくため、美土里支所周辺の住環境保全ゾーンにおけるコンパクトな都市構造の維持を図ります。
- 自然共生ゾーンについては、既存の農村集落や自然環境の維持を図ります。
- 特に高田IC周辺においては、道の駅北の関宿・安芸高田の機能維持・強化を図ります。

■ 土地利用の方針

① 住環境保全ゾーン

● 地域拠点エリア

- ・美土里支所を中心に、行政、医療、教育、商業等の都市機能がコンパクトに集約された都市構造の維持を図ります。
- ・また、医療や商業といった民間事業者が運営主体となる都市機能が将来的に維持できるよう、エリア内における人口密度の維持を図ります。



● 一般居住エリア

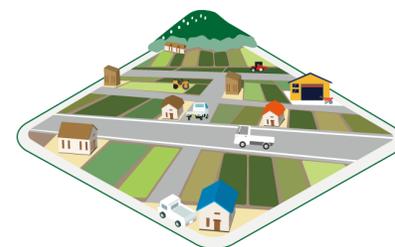
- ・横田地区では、美土里支所周辺や吉田町方面との交通アクセスの維持・強化により、低密で暮らしやすい居住環境の保全を図ります。



② 自然共生ゾーン

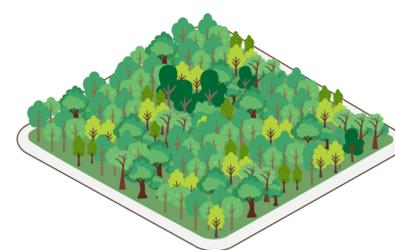
● 農住混在エリア

- ・北地区をはじめとした町内の農村集落においては、農業施策との連携を図りながら生活環境の維持・向上に努めます。
- ・高田IC周辺においては、道の駅北の関宿・安芸高田について、交通結節点や身近な商業施設としての機能維持・強化を図ります。



● 自然環境保全エリア

- ・町内の河川流域や森林周辺においては、既存の農地などの自然環境の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 美土里町

- 交通においては、美土里支所や道の駅を交通結節点とした公共交通体系の維持を図ります。
- 都市環境・景観においては、町内の多様な観光資源を活用した交流人口の増加を促進します。
- 防災においては、災害による交通網への影響を想定した対策について検討します。
- 地域活性化に向けては、交流人口の増加や地域コミュニティの維持・強化に向けた取組を推進します。

■ 交通の方針

① 道路網

・幹線道路である中国自動車道や国道433号、県道6号等をはじめ、近隣地域や市街地部と山間部との連絡性を確保するため、町内の集落間を結ぶ道路網の整備を進めます。

② 公共交通

・美土里支所や道の駅北の関宿・安芸高田を、高速バスやお太助バス・お太助ワゴンの交通結節点として位置づけ、乗り継ぎ利便性の向上を図ります。

・また、智教寺振興会が運行する友愛とろっこ便のような自家用有償旅客運送等の制度も活用しつつ、自家用車による移動が困難な住民でも不便なく生活できる公共交通体系の維持を図ります。

■ 都市環境・景観の方針

・ほととぎす遊園をはじめとした町内の公園・緑地空間を、住民や観光客の憩いの場として活用します。

・神楽門前湯治村や道の駅北の関宿・安芸高田、松尾城跡をはじめとした史跡・文化財等の観光資源を活用し、市内外からの観光による来訪・交流人口の増加を促進します。

■ 防災の方針

① 水害

・他町に比べると水害リスクの低い居住環境が広がっている一方、生田川や本村川の流域で、最大5m以上（想定最大規模）の洪水による浸水リスクが見込まれることから、水害リスクと居住環境が近接する範囲において、ハード・ソフト両面からの対策を重点的に検討します。

② 土砂災害

・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が町内の幹線道路沿いなどに広がっていることから、居住環境への対策に加え、土砂災害による交通網への被害を想定した対策についても検討します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

・神楽に代表される町の文化資産を将来に残すことができるよう、町内の観光資源を活用し、市内外からの観光による来訪・交流人口の増加を促進します。

・また、地域振興会等の地元団体による活動支援などを通し、人口減少下でも地域コミュニティを維持・強化することで、住民同士が支えあって生活できる環境形成を図ります。

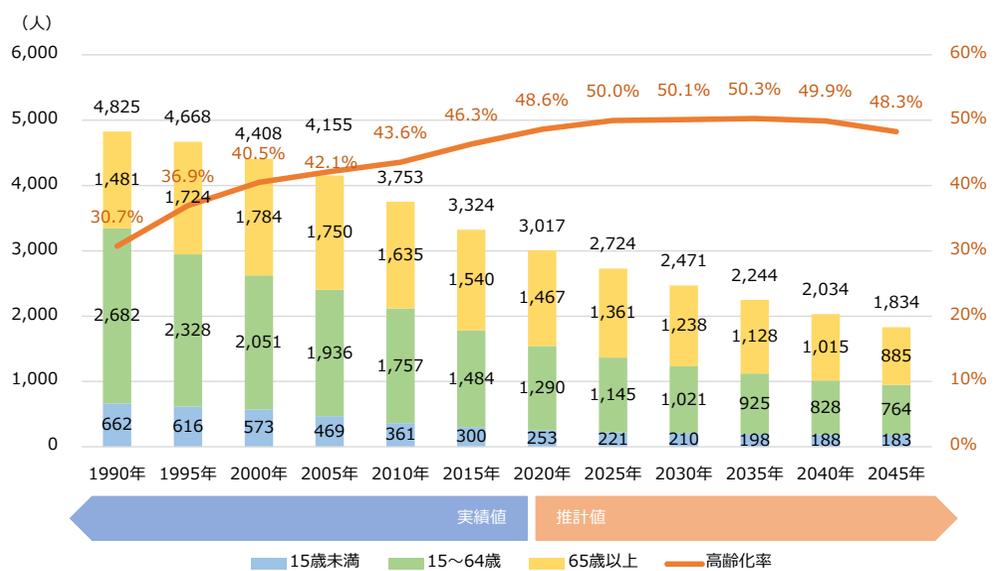
2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

- 市の北東部に位置する高宮町では、他地域に比べ、建物用地や田などの農用地が広く点在しています。
- 2000年には高齢化率が4割を超えており、2025年には5割に達する見込みです。
- 住民の意向として、農林水産業の振興や自然環境への配慮が重視されています。

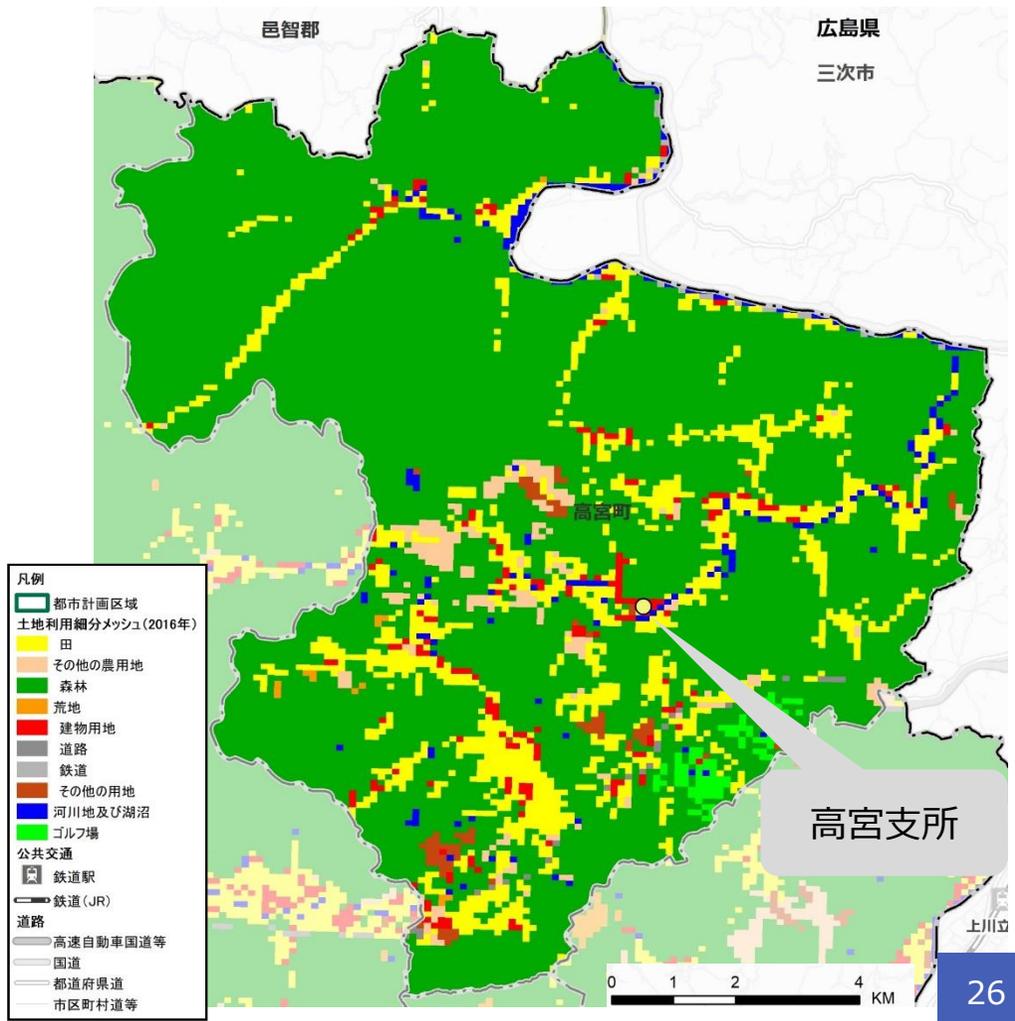
■ 地域資源

- 市の北東部に位置し、江の川等を挟んで三次市に隣接。
- 支所周辺以外にも、川根地区などの平地や川沿いに田畑や集落が点在。
- 生活行動では、三次市や吉田町の施設利用者が多い。
- 他町に比べ、今後のまちづくりにあたり、農林水産業の振興や環境への配慮を重視する声が多い。

■ 人口・高齢化率



■ 土地利用



出典：(2015年以前) 国勢調査
 (2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1990年から減少の一途をたどり、今後も減少見込みであるほか、高齢化率は45%以上で高止まりが見込まれる。 ● 町内の広範囲に居住地が分散しており、2045年には、川根地区などの一部エリアを除き人口密度が10人/ha未満となると予測されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の高止まりが見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地が集約されておらず、森林地帯を除く広範囲に点在している。 ● 福祉など一部の都市機能が、高宮支所周辺以外にも分散している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地が点在しており、高齢化率の高止まりも踏まえると、将来的な空き家の増加や、空き家の管理が十分行き届かなくなる可能性が懸念される。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、お太助バスやお太助ワゴンやもやい便が運行。 ● 高速道路のICが近く、高速バス乗り場も町内に存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 居住地から高宮支所周辺や吉田町・三次市などの拠点地域への、アクセス環境の維持・充実が必要である。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 支所周辺など、高齢人口密度の高いエリアの一部が、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域と重なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者をはじめとした住民が安心して暮らせる居住環境への誘導が必要である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の観光資源であるたかみや湯の森では、コロナ禍前の2017年から2019年にかけて利用者が増加している。 ● 1人当たりの橋梁延長は市内6町で最も高い値となっている。 ● 下水道は農業用のみが整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向けて、町内の観光資源を活用した交流人口の確保が有効と考えられる。 ● インフラ施設を将来にわたって維持できるよう、効率的な維持管理のための施策検討が必要である。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・通院等の多くの移動需要が、吉田町内や市外の施設に依存している。 ● 日常的な医療需要の一部は、甲田町内でも賅われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内に必要な都市機能と吉田町などの他地域で対応可能な都市機能の棲み分けによる、必要機能を維持するための適正配置の検討が必要である。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に今の居住地に「住み続けたい」もしくは「どちらかといえば住み続けたい」とする住民の割合は、市内6町で最も高い。 ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、地域コミュニティの維持ができなくなることを懸念する住民が他の町に比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の居住地に住み続けたい地域住民が将来にわたって住み続けられるよう、地域コミュニティの維持・強化に向けた取組を充実させることが必要である。

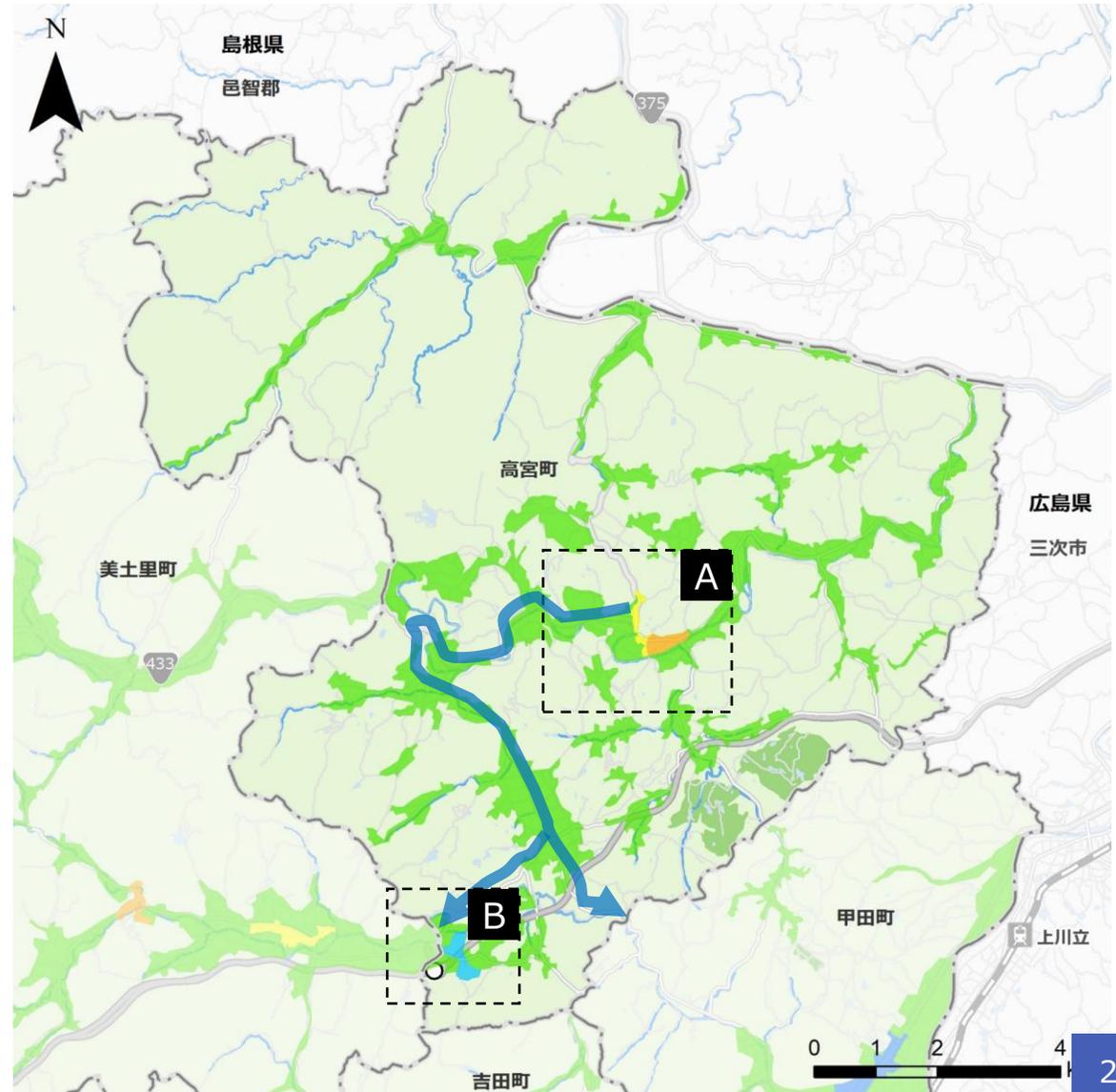
2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

○地域概況等を踏まえ、高宮町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

地域コミュニティの強化による
持続可能なまちづくり

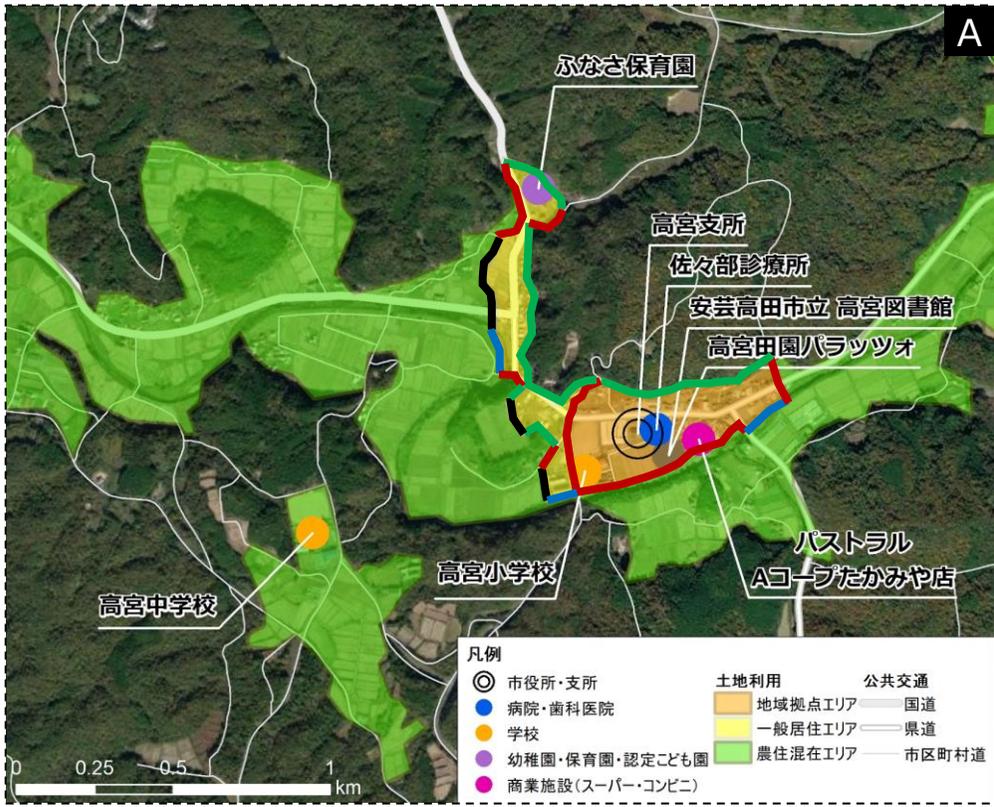
■ 地域の将来構造



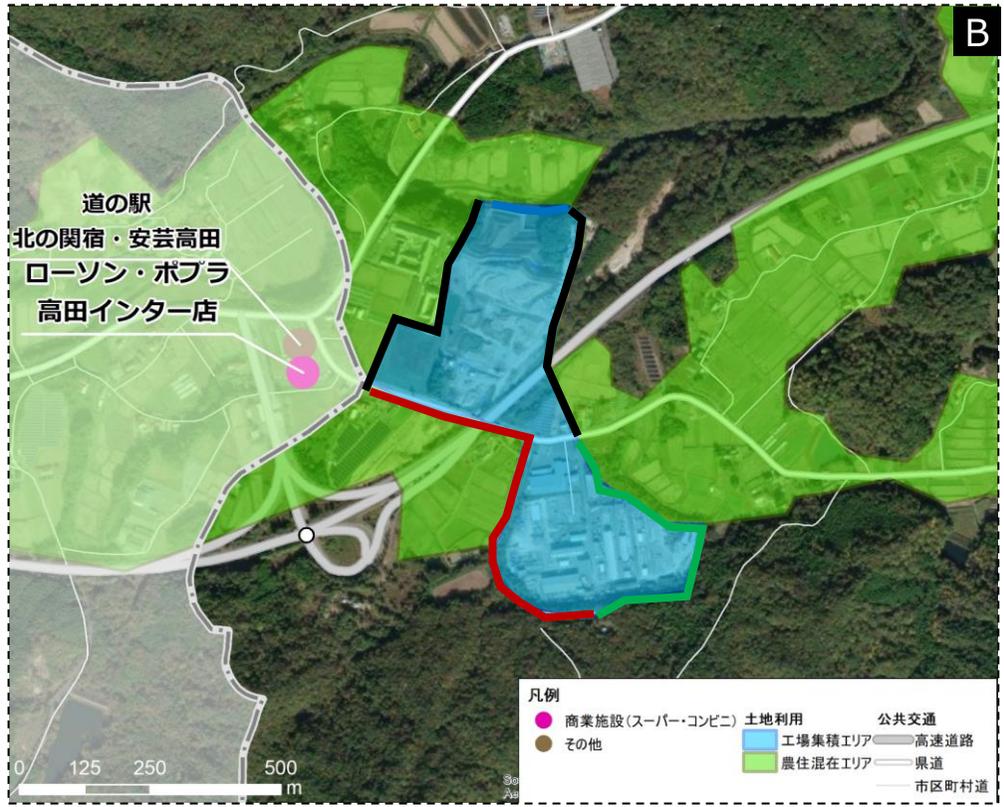
2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■ 高宮支所周辺



■ 工業団地周辺



境界線の位置

- 河川
- 道路
- 森林
- その他 (周辺道路からの延長、並行道路から一定距離等)

2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

- 土地利用においては、高宮支所を中心に地域拠点エリア・一般居住エリアを設定し、都市機能や居住環境が持続可能となる人口密度の維持を図ります。
- それ以外の自然共生ゾーンについては、既存の農村集落や自然環境の維持を図ります。
- 高田IC周辺（高宮工業団地）は工場集積エリアに指定し、住工分離による良好な都市環境の形成を図ります。

■ 土地利用の方針

① 住環境保全ゾーン

● 地域拠点エリア

・高宮支所を中心に、行政、文化、医療、教育、商業等の都市機能がコンパクトに集約された都市構造の維持を図ります。



● 一般居住エリア

・地域拠点エリア内にある医療、商業等の民間運営の都市機能が将来的に維持できるよう、エリア内における人口密度の維持を図ります。



② 自然共生ゾーン

● 工場集積エリア

・高田IC周辺では、既存の工場群の集積を図り、住居地域との棲み分けによる良好な都市環境の形成を目指します。



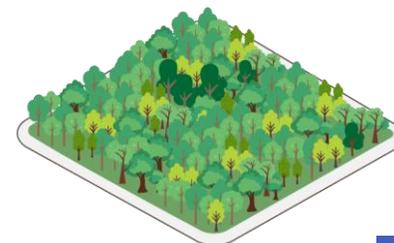
● 農住混在エリア

・川根地区や原田地区をはじめとした町内の農村集落においては、農業施策との連携を図りながら、獣害の無い美しい農村地帯の再生と生活環境の維持・向上に努めます。



● 自然環境保全エリア

・町内の河川流域や森林周辺においては、既存の農地などの自然環境の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 高宮町

- 交通においては、高宮支所を交通結節点として、自宅から目的地までの公共交通での利便性向上を図ります。
- 都市環境・景観においては、地域の自然・文化資産による観光資源の活用を促進します。
- 防災においては、居住環境への対策に加え、交通網への被害を想定した対策についても検討します。
- 地域活性化に向けては、町の強みを活かした美しい田園地帯の創造を目指します。

■ 交通の方針

① 道路網

- ・幹線道路である中国自動車道や国道433号、県道4号等をはじめ、近隣地域や市街地部と山間部との連絡性を確保するため、町内の集落間を結ぶ道路網の整備を進めます。

② 公共交通

- ・町の中心である高宮支所をお太助バス・お太助ワゴンの交通結節点として位置づけ、自宅から地域拠点、地域拠点から吉田町や市外等への乗り継ぎ利便性の向上を図ります。
- ・広島市中心部までの移動が可能な高速バス乗り場を活用するため、高速バスと町内交通の乗り継ぎ利便性の向上を図ります。
- ・端末交通については、川根振興協議会が運行するもやい便のような自家用有償旅客運送等の制度も活用しつつ、自家用車による移動が困難な住民でも不便なく生活できる公共交通体系の維持を図ります。

■ 都市環境・景観の方針

- ・安芸のはやし田や、町内のゴルフ場、キャンプ場など、地域の自然・文化資産による観光資源を活用し、市内外からの観光による来訪・交流人口の増加を促進します。
- ・神楽に代表される伝統文化や、国内で有数のオフロードレース場・県内屈指のオンロードレース場などを、町の観光資源として活用します。

■ 防災の方針（水害・土砂災害）

- ・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域、洪水による浸水想定区域が町内の幹線道路沿いなどに広がっていることから、居住環境への対策に加え、土砂災害や水害による交通網への被害を想定した対策についても検討します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

- ① 神楽やはやし田に代表される、伝統文化・田園文化の保存継承
 - ② 主要産業としての農業の維持・技術向上、働き手の確保
 - ③ 地域コミュニティ活動の活性化
- の3点を通し、美しい田園地帯の創造を図ります。

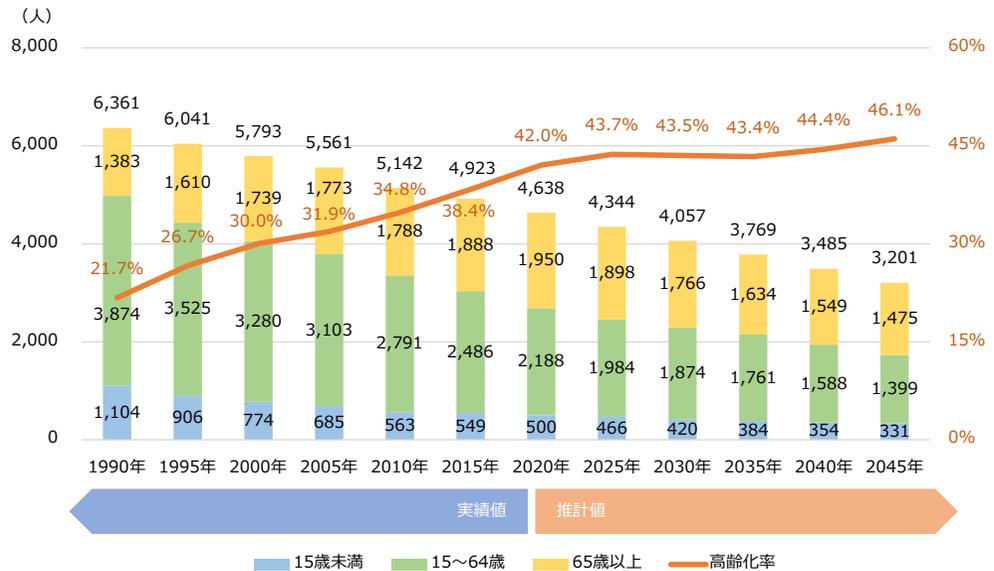
2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

- 市の東部に位置する甲田町では、病院・診療所が他町に比べて充実しています。
- 総人口は1990年以降減少が続いている一方、高齢人口（65歳以上）は2020年まで増加を続けています。
- 甲立駅や支所の周辺を中心に、国道54号やJR芸備線沿いなどに建物用地が広がっています。

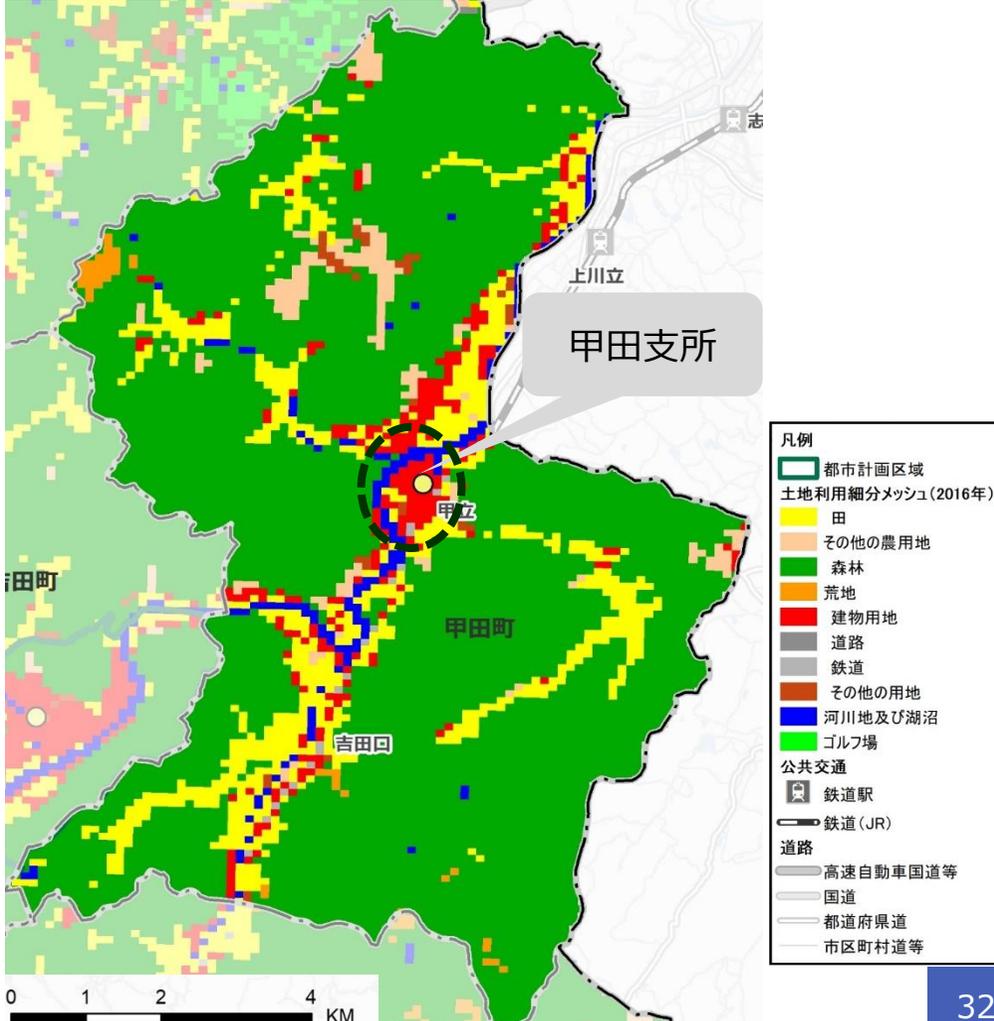
■ 地域資源

- 市の東部に位置し、JR芸備線や国道54号沿いを中心に建物や田畑が立地。
- 病院・診療所が他町に比べて充実しており、他町から甲田町に通院する住民も多い。
- ハンドボールが盛んで、全国レベルの実業団チーム等が存在。
- 他町に比べ、スーパーなどの店舗の撤退を懸念する声が多い。

■ 人口・高齢化率



■ 土地利用



出典：(2015年以前) 国勢調査
 (2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1990年から減少の一途をたどり、今後も減少見込みであるほか、高齢化率は2015年時点で38%、2045年には46%となる見込み。 ● 町内全体で人口密度が低下する見込みであり、町の中心部である甲田支所・甲立駅周辺でも、2045年には20人/ha未満となる見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来にわたって地域コミュニティや町内の都市機能を維持するため、特に甲田支所・甲立駅周辺を中心としたコンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地は甲田支所の周辺を中心に広がっているほか、国道54号やJR芸備線沿いに広く点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少が見込まれる中、地域全体として良好な居住環境を維持するため、地区別にまちづくりの方針を明確化する必要がある。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、JR芸備線や広域路線バスにより、吉田町や三次市、広島市方面へのアクセスが可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 甲田支所周辺では洪水浸水想定区域と、吉田口駅周辺では土砂災害警戒区域と、それぞれ高齢人口密度の高いエリアが重なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者をはじめとした住民が安心して暮らせるよう、災害リスクの低い居住環境の構築および誘導が必要である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンドボールが盛んで、全国レベルの実業団チーム等が存在している。 ● 1人当たりの道路・橋梁延長や下水道処理面積の値は市全体の平均値よりやや小さいが、2010年から2045年にかけて約2倍になる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向けて、町内の観光資源を活用した交流人口の確保が有効と考えられる。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物行動や総合病院機能については、吉田町や市外の施設に依存する割合が高い。 ● 一方、日常的な通院需要は約7割が町内で賄われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な生活に必要な買い物・通院施設等を維持・充実させることで、将来にわたって快適な居住環境を形成することが求められる。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の居住環境に対して「満足している」または「まあまあ満足している」とする住民の割合が市内6町で最も高い。 ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、スーパー等の店舗の撤退を懸念する住民が他の町に比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点エリアを中心とした現状の都市機能を維持し、将来にわたって良好な居住環境を確保することが求められる。

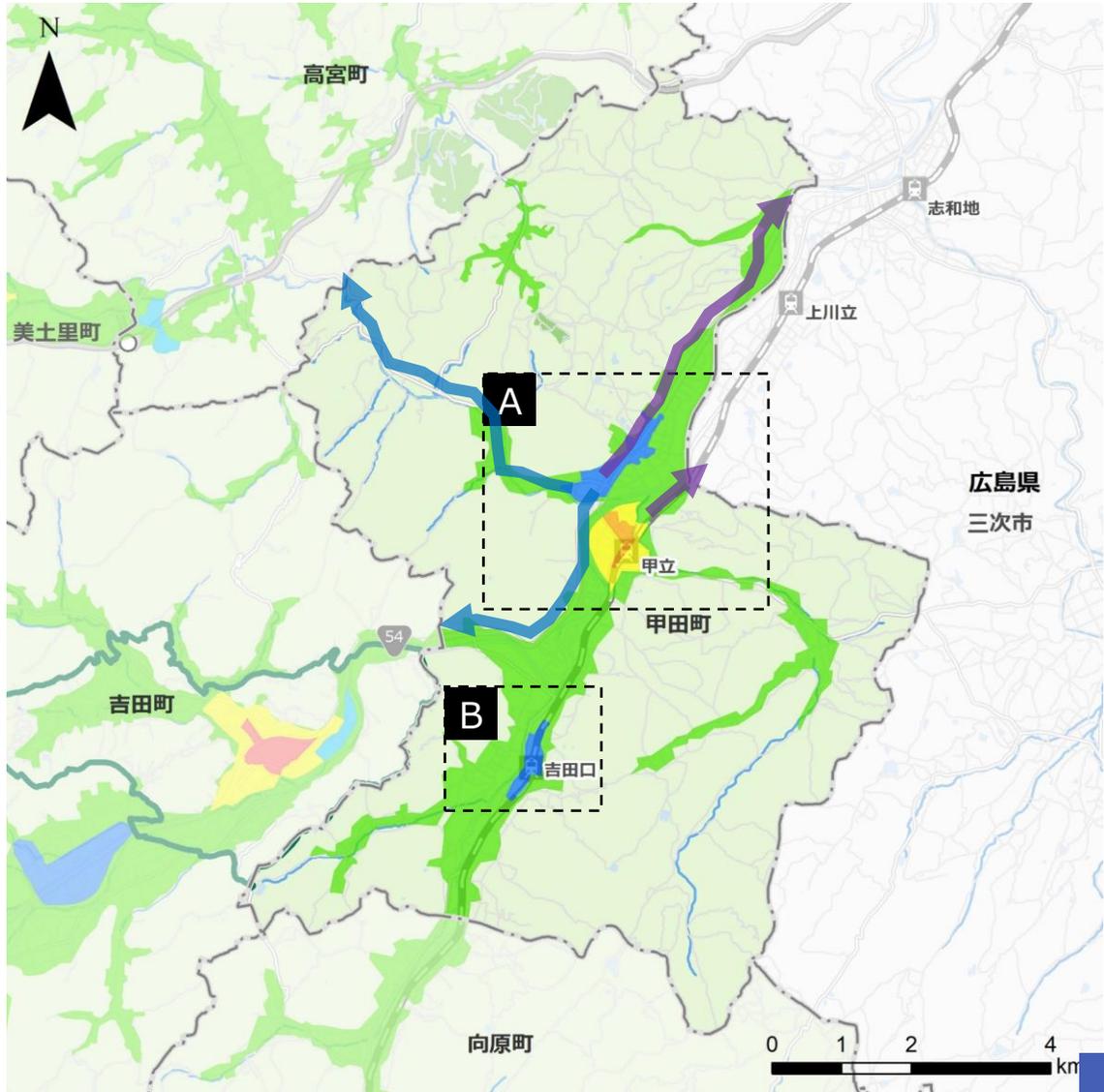
2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

○地域概況等を踏まえ、甲田町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

医療やスポーツを通じた
いきいきと暮らせるまちづくり

■ 地域の将来構造

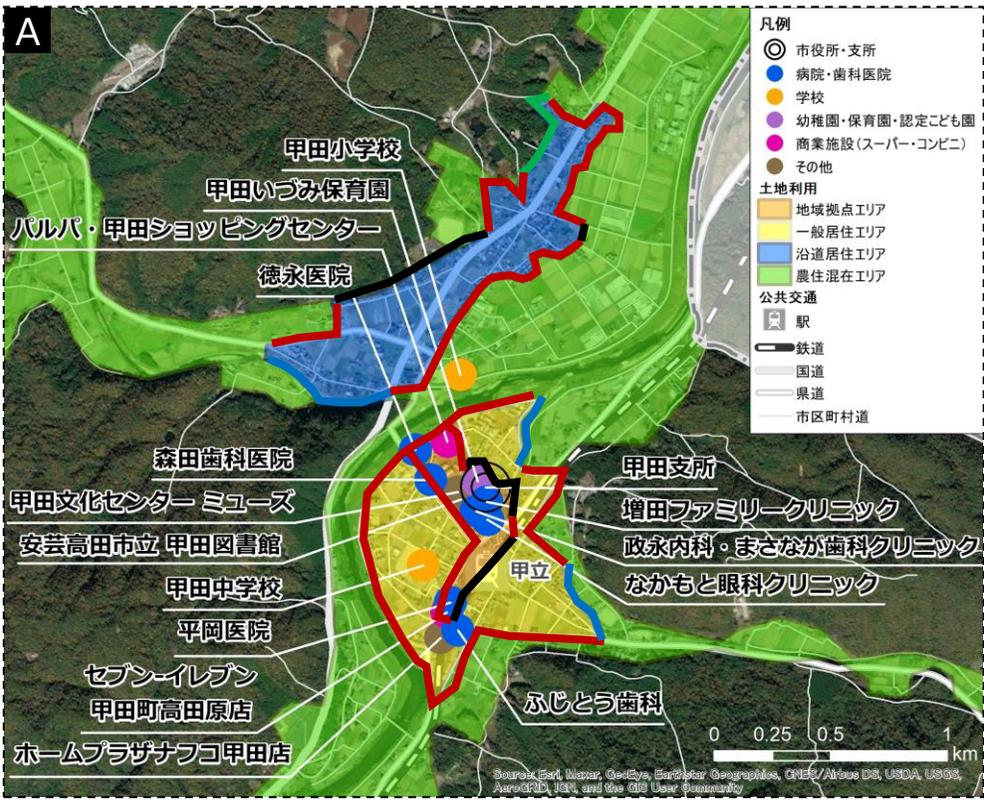


凡例		公共交通	
河川	中心拠点エリア	駅	IC
ゴルフ場	地域拠点エリア	鉄道	高速道路
	一般居住エリア		国道
	工場集積エリア		県道
	沿道居住エリア		市区町村道
	農住混在エリア		
	自然環境保全エリア		
↔	拠点間連携軸		
↔	広域連携軸		

2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■ 甲田支所周辺



■ 吉田口駅周辺



境界線の位置

- 河川
- 道路
- 森林
- その他 (周辺道路からの延長、並行道路から一定距離等)

2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

- 土地利用においては、甲立駅周辺を中心に地域拠点エリア・一般居住エリアを設定し、徒歩圏内に必要施設が集約された都市構造形成を目指します。
- また、国道54号沿道や吉田口駅周辺については沿道居住エリア、その他のエリアは農住混在エリア・自然環境保全エリアに設定し、それぞれ既存の都市環境の維持や居住環境の改善を図ります。

■ 土地利用の方針

① 住環境保全ゾーン

● 地域拠点エリア

・甲立駅から支所周辺にかけてのエリアを中心に、行政、医療、文化、金融、商業、業務等の拠点機能を集約し、徒歩圏内に生活に必要な施設が集約された都市構造の形成を目指します。



● 一般居住エリア

・地域拠点エリア以外の江の川とJR芸備線に囲まれたエリアにおいては、水害リスクの少ない範囲において居住環境の維持・充実を図ります。



② 自然共生ゾーン

● 沿道居住エリア

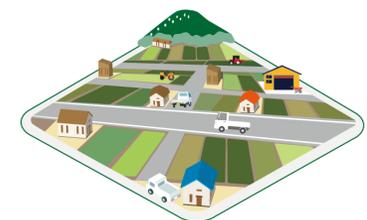
・国道54号沿道においては、広域移動ニーズや点在する工場等と住宅等の居住環境との共存に向け、適切な土地利用の誘導を図ります。

・吉田口駅周辺では、交通利便性の周知等を通し、現状規模の居住環境の維持を図ります。



● 農住混在エリア

・甲立駅東側エリアなどの町内の農村集落においては、農業施策との連携を図りながら生活環境の維持・向上に努めます。



● 自然環境保全エリア

・江の川や戸島川の周辺エリア等については、災害リスクを考慮しつつ、既存の農地などの自然環境の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 甲田町

- 交通においては、鉄道と広域路線バスの連携・棲み分けによる公共交通網強化等を図ります。
- 都市環境・景観においては、町内の多くの公園・緑地や文化資源の活用を推進します。
- 防災においては、特に江の川や戸島川の洪水リスクや、山間部での土砂災害リスクへの対策を推進します。
- 地域活性化に向けては、コミュニティ活動の充実による住民の健康増進を図ります。

■ 交通の方針

① 道路網

- ・広域連携軸や地域間連携軸を担う国道54号や県道37号を中心に、近隣地域や市街地部と山間部との連絡性を確保するため、幹線道路などの機能整備・拡充を図ります。
- ・また、地域拠点エリア内を中心に街路整備を行い、歩車共存が可能で安全な道路環境の整備を推進します。

② 公共交通

- ・広島市や三次市への主要な移動手段であるJR芸備線と、吉田町から市外へ向かう広域路線バス（高田南部線・三次吉田線・上根吉田線）の連携・棲み分けにより、公共交通網の強化を図ります。
- ・また、甲立駅を中心に、鉄道・広域路線バスとお太助バス・お太助ワゴンの乗り継ぎ強化を図ります。

■ 都市環境・景観の方針

- ・町内に3箇所存在する多目的広場・スポーツ広場や、湧永満之記念庭園等をはじめとした町内の公園・緑地空間を、住民や観光客の憩いの場として活用します。
- ・甲立古墳や日野家住宅をはじめとした文化資源を活用し、地域内外の周遊観光を促進します。

■ 防災の方針

① 水害

- ・甲田支所周辺をはじめ、江の川や戸島川の流域で洪水による浸水リスクがあるため、国や県と連携した河川整備や避難場所の整備、特に災害リスクが高いエリアからの移転の促進などのハード面での対策を推進します。
- ・また、ハザードマップや避難場所の周知、避難訓練の実施など、ソフト面での災害対策についても充実を図ります。

② 土砂災害

- ・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が山間部の集落周辺などに広がっていることから、災害リスクの低い場所への移転促進や災害リスクの周知等の取組を推進します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

- ・高齢になっても健康で充実した生活を送ることができるよう、スポーツイベント等の地域コミュニティ活動の充実を通して住民の健康増進を図ります。
- ・また、芸備線を活用し三次市等からの交流人口の確保を図るとともに、町内での雇用の場の創出に向けた取組を行う。

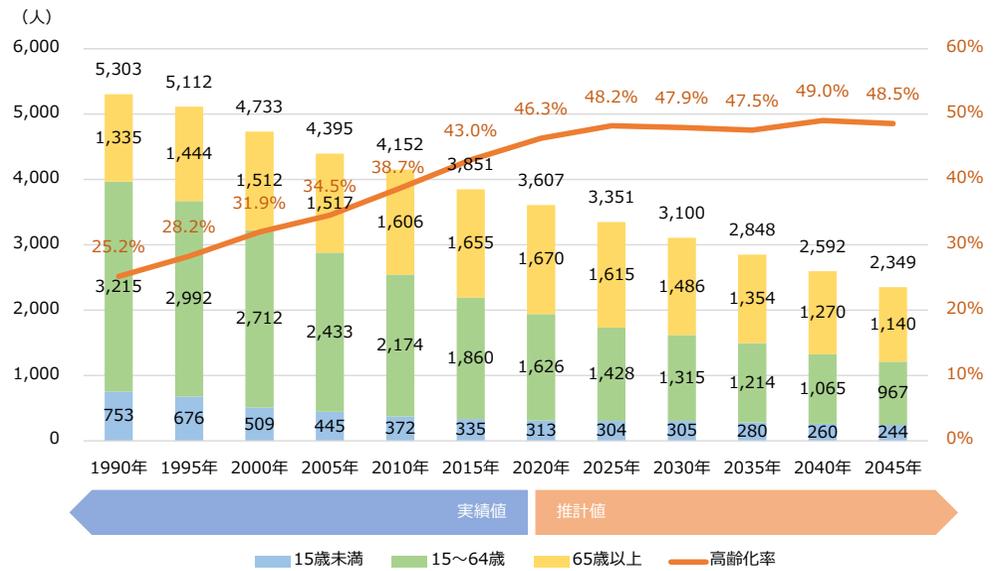
2. 各地域の地域別構想 | 向原町

- 市の南東部に位置する向原町では、向原駅を中心にコンパクトなまちなみが形成されています。
- 特に生産年齢人口（15～64歳）が急激に減少しており、1990年から2045年の間で約7割減少見込みです。
- 建物用地が主に立地する向原駅周辺では、他地域に比べ建物が密集しています。

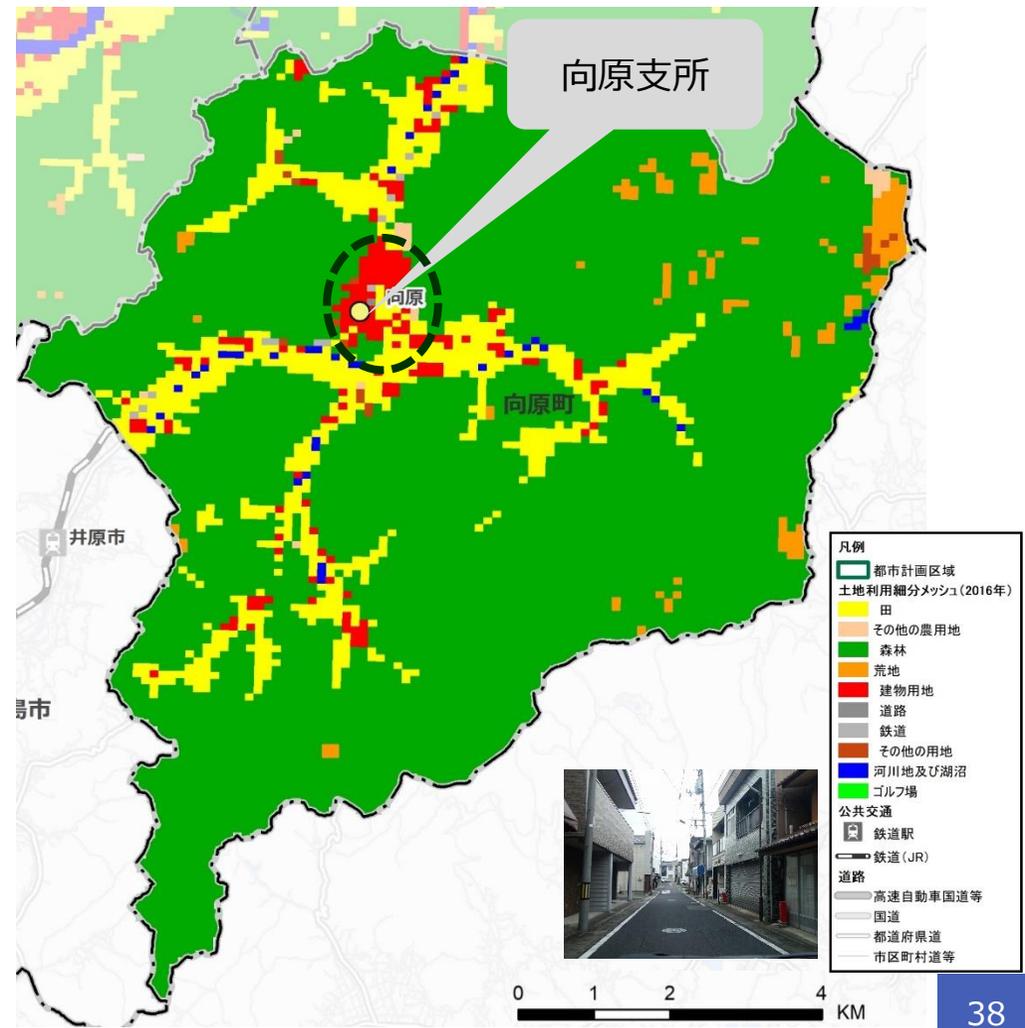
■ 地域資源

- 市の南東部に位置し、南西端は広島市に接している。
- JR芸備線沿線の狭い範囲を中心に建物や田畑が立地し、多くの都市施設が向原駅周辺に集約されている。
- 生活行動では、同様に広島市に接する八千代町に比べ、市外より吉田町内の施設利用者が多い。
- 他町に比べ、公共交通の利便性低下を懸念する声が多い。

■ 人口・高齢化率



■ 土地利用



出典：(2015年以前) 国勢調査
(2020年以降) 将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)を用いて算出

2. 各地域の地域別構想 | 向原町

○現況分析やアンケート結果等を踏まえ、地域の現状と問題点、および町の強みと課題を以下の通り整理しました。

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1990年から減少の一途をたどり、今後も減少見込みであるほか、高齢化率は40%以上で高止まりする見込みである。 ● 特に支所南西部のエリア（保垣地区）では、高齢化率55%以上のエリアも見られるほか、町全体で将来的に人口密度が低下する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の高止まりが見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地や各種都市機能（行政、医療、商業、保育等）は、一部を除き向原支所の周辺に比較的集約されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市機能がコンパクトに集約された、住みやすい都市構造の維持が求められる。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、JRや広域路線バスで広島市方面等へアクセスが可能であるほか、お太助バスやお太助ワゴンも利用可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢人口密度の高いエリアの多くが、土砂災害警戒区域と重なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害リスク等を考慮し、高齢者をはじめとした住民が安心して暮らせる居住環境の構築および誘導が必要である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人当たりの道路・橋梁延長の値は市全体の平均値と同程度もしくはやや高い値であり、2020年から2045年にかけて約1.5倍になる見込み。 ● 一方、1人当たりの下水道処理面積は市全体の平均値の2倍以上であり、町別処理面積は公共下水道が整備されている吉田町の次に大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共インフラを将来にわたって維持できるよう、効率的な維持管理のための施策検討が必要である。
市民アンケート調査	生活行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物・通院等の多くの移動需要が、吉田町内や市外の施設に依存している。 ● 日常的な医療需要の一部は、甲田町内でも賄われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活に必要な都市施設の充実や、市内外の都市施設を利用するためのアクセス環境の持続的な確保が必要である。
	住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、公共交通の利便性低下を懸念する住民が他の町に比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。（再掲）

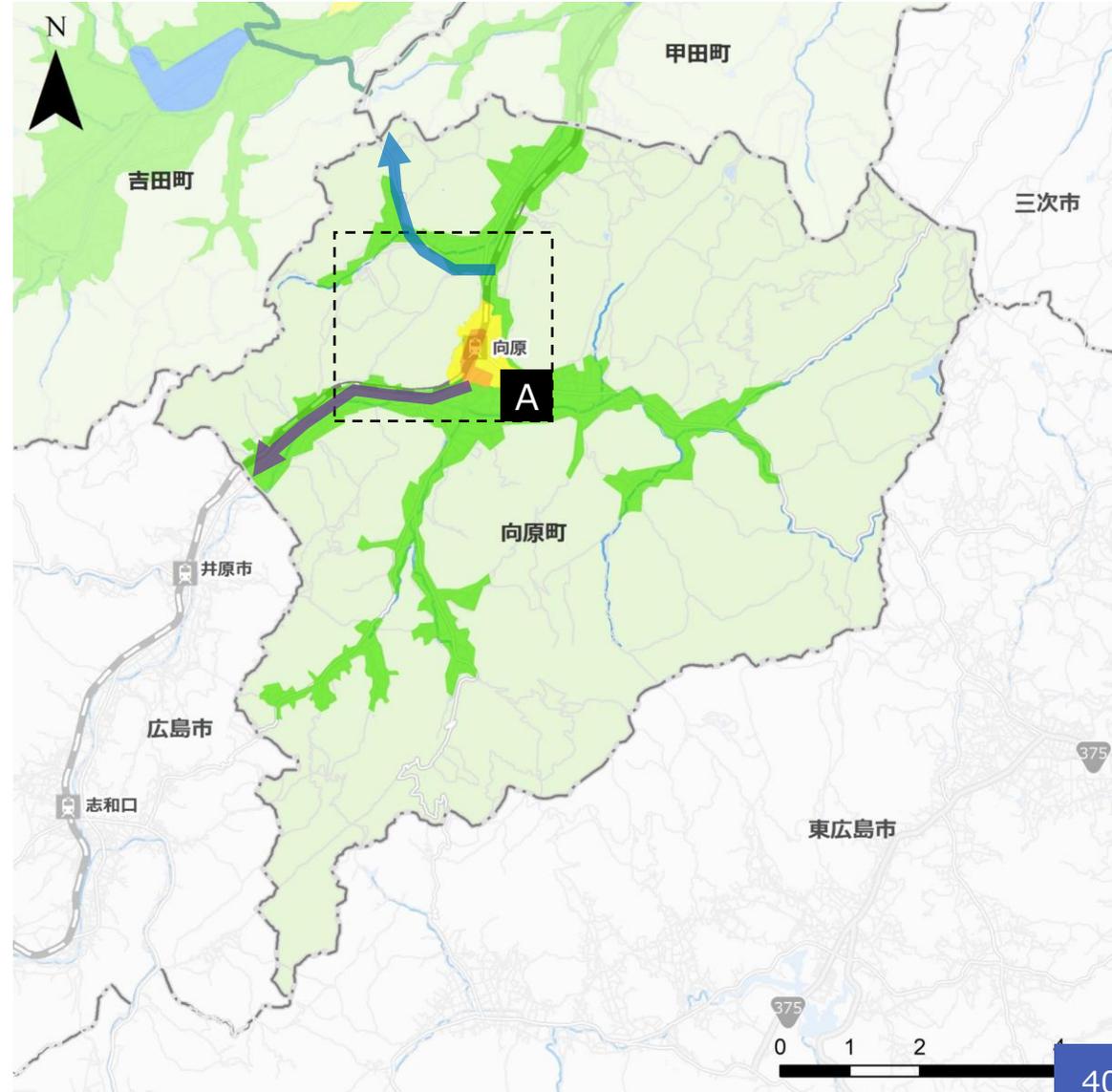
2. 各地域の地域別構想 | 向原町

○地域概況等を踏まえ、向原町のまちづくりで目指すテーマおよび地域の将来構造を以下の通り設定します。

■ 目指すテーマ

コンパクトな居住環境による
暮らしやすいまちづくり

■ 地域の将来構造

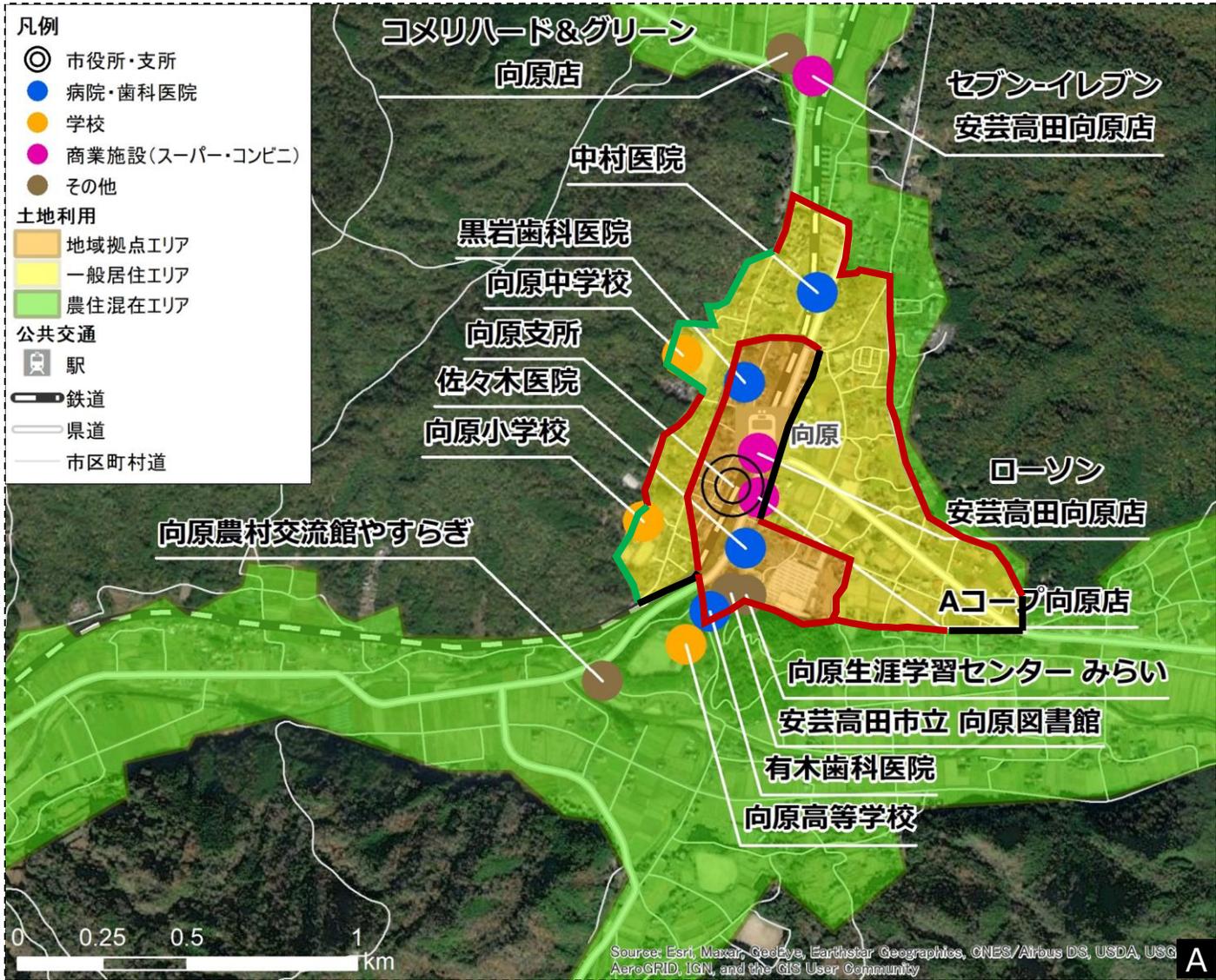


凡例	土地利用	公共交通
河川	中心拠点エリア	駅
ゴルフ場	地域拠点エリア	鉄道
	一般居住エリア	IC
	工場集積エリア	高速道路
	沿道居住エリア	国道
	農住混在エリア	県道
	自然環境保全エリア	市区町村道
	拠点間連携軸	
	広域連携軸	

2. 各地域の地域別構想 | 向原町

○農住混在エリア・自然環境保全エリアを除く各エリアの拡大図は以下の通りです。

■ 向原支所周辺



2. 各地域の地域別構想 | 向原町

- 土地利用においては、向原駅を中心に地域拠点エリア・一般居住エリアを設定し、コンパクトな住環境の形成を推進します。
- それ以外の集落エリア等については、既存の農村集落や自然環境の維持を図ります。

■ 土地利用の方針

① 住環境保全ゾーン

● 地域拠点エリア

- ・向原駅を中心としたコンパクトなエリアにおいて、行政、医療、金融、商業、業務といった、地域に必要な様々な都市機能の集約を図ります。
- ・特に、駅周辺の空き家や空き地などの低・未利用地の活用により、地域拠点にふさわしい賑わいあるまちなみの形成を進めます。



● 一般居住エリア

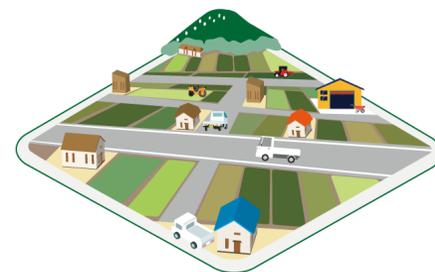
- ・向原駅への徒歩圏内を中心に、既存生活サービス機能の維持に必要な人口密度の確保に加え、防災面等にも配慮した低密な居住環境の形成を図ります。



② 自然共生ゾーン

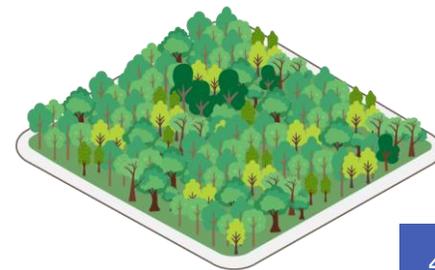
● 農住混在エリア

- ・県道37号沿道の集落エリア（長田地区、戸島地区）においては、広域移動ニーズに対応したコンビニや飲食店、工場等について、住宅や農用地等の住民向け施設との共存に向け、適切な土地利用の誘導を図ります。
- ・また、農村集落（有留地区、保垣地区、坂地区）においては、農業施策との連携を図りながら生活環境の維持・向上に努めます。



● 自然環境保全エリア

- ・三篠川・見坂川・有坂川の周辺エリア等については、既存の自然環境の保全を図ります。



2. 各地域の地域別構想 | 向原町

- 交通においては、吉田町（路線バス）や甲田町、広島市方面（鉄道）を中心とした移動環境の充実を図ります。
- 都市環境・景観においては、向原運動公園の利用促進等を推進します。
- 防災においては、山間部や河川沿いの災害リスクが高いエリアにおける対策を推進します。
- 地域活性化に向けては、地域住民と行政の連携に加え、交流人口や移住者の受入の強化を図ります。

■ 交通の方針

① 道路網

- ・広域連携軸を担う県道37号を中心に、幹線道路の機能維持・強化を図ります。特に、東広島高田道路（向原～吉田間）については、本市の拠点間連携軸を担う重要な道路網として、広島県に対して早期整備を促進していきます。
- ・また、県道37号が住環境保全ゾーンを東西に分割する形で位置していることから、通学路を中心に、歩行者等が安全で快適に通行できる道路空間の整備を図ります。

② 公共交通

- ・広島市や三次市、甲田町への主要な移動手段である、JR芸備線の利用促進を図ります。
- ・また、地域拠点エリアに位置する向原駅を中心に、広域移動手段である鉄道・広域路線バス（志屋線）と域内交通の結節強化を図ります。

■ 都市環境・景観の方針

- ・向原運動広場については、本市全体からのスポーツ・イベント等での利用ニーズに対応した場として利用促進を図るほか、その他の公園についても、住民の憩いの場として活用します。
- ・三篠川・見坂川・有坂川等について、自然環境に配慮した河川空間づくりを図ります。

■ 防災の方針（水害・土砂災害）

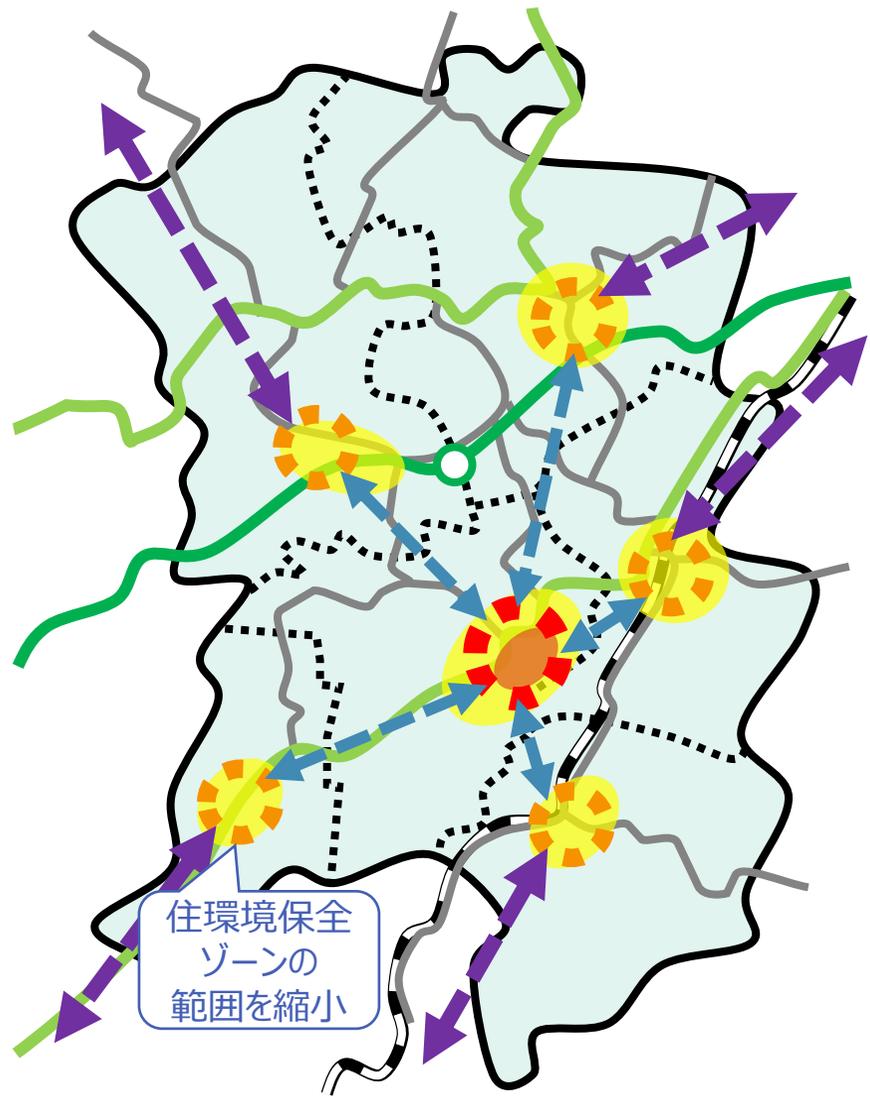
- ・土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域、洪水による浸水想定区域が山間部や河川沿いの集落周辺などに広がっていることから、災害リスクの低い場所への移転促進やハザードマップによる災害リスクの周知等の取組を推進します。

■ 地域活性化に向けた取組方針

- ・地域振興会等の地域団体をはじめとした住民と行政が連携して、向原駅を中心としたコンパクトなまちづくりを推進します。
- ・また、町内の豊かな自然環境を活用し、広島市等からの交流人口の確保を図るとともに、町内での雇用の場の創出に向けた取組等ともあわせて、二拠点居住を含めた移住者の受入強化を図ります。

3. 将来都市構造の見直し

○前回の委員会で検討した将来都市構造について、地域別構想で検討したエリア設定結果を踏まえ、一部見直しを行います。



拠点・軸

- 中心拠点**
本市全体として必要な拠点機能を担うエリア
- 地域拠点**
地域住民の日常生活に必要な施設等の集約・維持を目指すエリア
- 拠点間連携軸**
市内の中心拠点と地域拠点を結び、拠点間のつながりを特に充実させる連携軸
- 広域連携軸**
周辺市町との連携により個々の都市の発展を促す軸

土地利用（ゾーン）

- 賑わい創出ゾーン**
商業・文化・行政施設等を充実させ、高密な市街地の形成を図るゾーン
- 住環境保全ゾーン**
戸建て住宅を中心に維持・充実を図り、低密な市街地の形成を図るゾーン
- 自然共生ゾーン**
集落・農用地・山林等が共存し、豊かな自然環境の保全を図るゾーン

(参考) まちづくりの基本的方針

○これまで検討してきた本市の都市計画における解決すべき課題を踏まえ、目指すべきまちの方向性として、以下の4項目が考えられます。

		解決すべき課題	目指すべきまちの方向性	
安芸高田市の現状	①人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少により、一定の人口を必要とする生活サービス施設の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性があり、対策が必要である。 ● 特に高齢者は日常生活における移動が困難となることが予想され、高齢者が安全・安心・快適に生活できるような居住環境確保、アクセス環境の整備が必要となる。 ● また、産業の担い手不足が見込まれ、活力の創出に向けた対策が求められる。 	<p>コンパクトな都市の構築 居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図る。 (対応項目：①②④⑤⑦⑧)</p>	
	②土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地の点在による都市のスプロール化が懸念され、その対策が必要である。 ● 現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。 		
	③公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の足を引き続きカバーし続けることが求められる。 ● お太助ワゴン、お太助バス、もやい便、とろっこ便は赤字となっていることから、利用者のニーズに対応しつつ、公共交通の効率的な運用の検討が必要である。 		
	④産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 卸売・小売業といった一定の人口を必要とする生活サービス施設が縮小し、日常的な買い物が困難になる等の状況が見込まれることから、ニーズに応じた商業機能の強化が求められる。 ● 観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた観光業の活性化が求められる。 ● また、観光客が本市に来訪しやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。 ● 産業の活性化を推進し、生活水準の維持や雇用の創出を図る必要がある。 		
	⑤都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政の悪化により、まちの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化等を行うことで、公共施設に対する維持管理費を削減する必要がある。 ● 都市施設の老朽化対策及び耐震化の推進が必要である。 	<p>安全・安心な居住環境の確保 災害リスクの低い安全な地域への居住誘導を図るとともにインフラの整備等を行い、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図る。 (対応項目：①②⑤⑥⑨)</p>	
	⑥防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。 ● インフラの耐震化・長寿命化、防災拠点の整備等、災害に強い都市基盤の整備の推進が求められる。 ● 災害リスクの低い区域への居住の誘導や、災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発等のソフト対策の推進も必要である。 		
	⑦都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の適正配置により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。 ● 特に、高齢化の進行に伴い、日常移動が困難な高齢者が増えることが予想されるため、高齢者の都市機能へのアクセス確保が必要である。 		
	市民アンケート調査	⑧日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の生活行動パターンを踏まえ、都市機能の配置の適正化が必要である。 ● 過度な車依存からの脱却を図り、高齢等の理由で運転免許を返納した後も日常生活を快適に過ごせるよう、都市施設や公共交通網の整備が必要である。 ● コロナ禍による住民の外出頻度低下に伴い、地域コミュニティの弱体化等が懸念される。 	<p>活力の創出 地域ならではの産業の活性化や、地域コミュニティの強化により、活力の創出を図る。 (対応項目：①④⑧⑨)</p>
		⑨住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在安芸高田市内に居住している住民が、将来にわたって住み続けたいと思える都市環境の整備が必要である。 ● 特に吉田町を中心に、災害リスクへの対応を強化すること等による、安心して暮らせるまちづくりが求められる。 	

(参考) 分野別方針 | 土地利用

○土地利用については、将来都市構造で定めた拠点・軸やゾーンを踏まえて拠点間連携を行い、既存ストックの有効活用による賑わいのあるまちづくりを推進していきます。

■土地利用に関する現状・問題点

- 市域のほとんどを森林が占めており、鉄道、国道、県道の周辺に田、建物用地が広がっている。
- 都市計画区域は吉田町の一部にのみ指定されており、区域内に設定されている用途地域の50.9%を第一種住居地域が占めている。
- 都市計画区域外や6町の中心部以外にも、建物用地が点在している。
- 空き家数・空き家率ともに増加傾向にある。

■土地利用に関する本市の取組

- 第2期安芸高田市総合計画のリーディングプロジェクトとして、「若者の定住促進強化プロジェクト」を推進しており、特に土地利用に関する施策として、働く環境の整備や住宅の整備・供給支援等を行っている。
- 特に、空き家の活用については、空き家情報バンクを市が開設し、需要と供給のマッチングを推進している。

■土地利用に関する取組方針

既存ストックの有効活用による賑わいのあるまちづくり

賑わい創出ゾーン

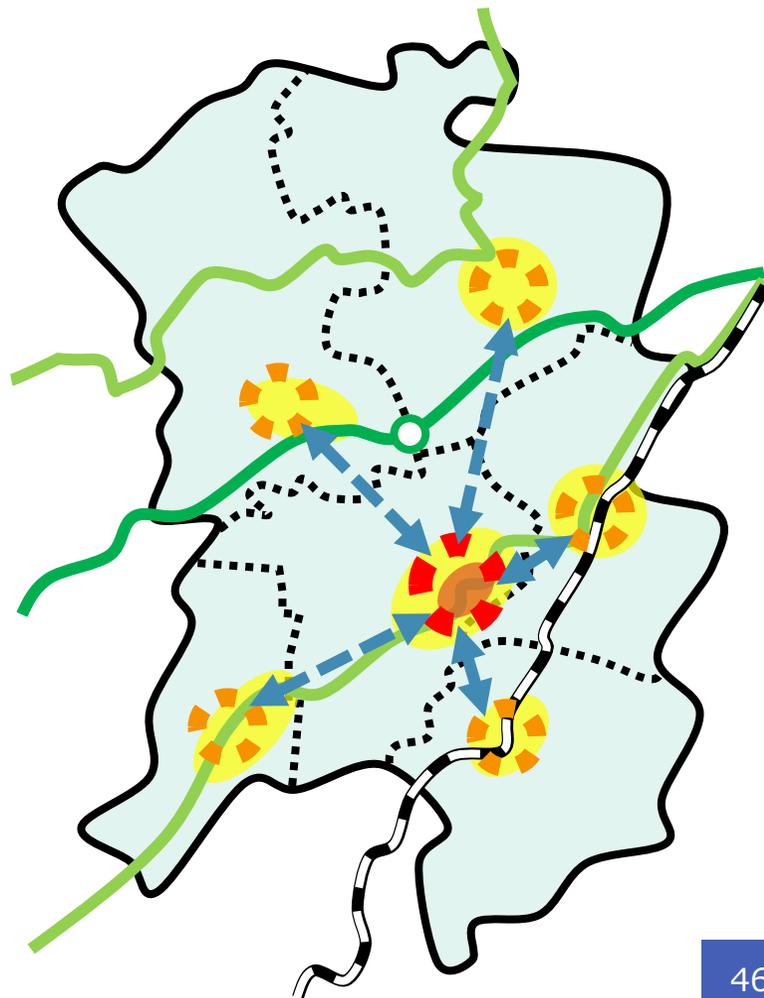
- 商業・文化・行政施設等の都市機能の充実による、高密な市街地の形成
- まちの顔としての賑わい創出

住環境保全ゾーン

- 戸建て住宅を中心とした居住環境の維持・充実による、低密な市街地の形成
- 人口規模や地域特性に応じた市街地規模の適正化

自然共生ゾーン

- 集落・農用地・山林等の共存による、豊かな自然環境の保全
- 集落コミュニティの維持・活性化



(参考) 分野別方針 | 都市施設

○都市施設については、合理化と長寿命化の推進に加え、まちの活性化に向けた運用を進めていきます。

■都市施設に関する現状・問題点

- 市民1人当たりのインフラの延長、公共施設の延床面積が大きく、今後人口が減少することで、市民1人当たりが負担すべき維持管理費の増大が懸念される。
- 既存の施設を耐用年数まで使用し、すべての施設を同規模で更新すると仮定した場合、費用が大幅に不足する。
- 橋梁等のインフラ構築物の中には、建設後50年を経過しているものもあり、今後急速に老朽化が進行していくことが懸念される。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。

■都市施設に関する本市の取組

- 平成22年度に橋梁長寿命化修繕計画、令和2年度にトンネル長寿命化修繕計画を策定。
- 平成27年に公共施設等総合管理計画を策定。個別計画にて、各施設の再編を検討している。
- 平成23年に学校規模適正化推進計画、保育所規模適正化計画を策定。

■都市施設に関する取組方針

持続可能な都市施設の運用

都市施設の合理化と長寿命化の推進

- 公共施設やインフラの長寿命化、バリアフリー化
- 学校、保育所をはじめとする公共施設の再編、配置の適正化
- 将来的に維持可能なサービス水準を想定した公共施設の利用促進
- 日常生活に必要な都市機能を拠点に維持するための行政支援
- 民間活力の導入による効率的な施設運用
- 空き屋等の既存ストックの利活用



吉田小学校 出典：吉田小学校HP

まちの活性化に向けた都市施設の運用

- 道の駅やスポーツ施設など、にぎわい創出や観光振興に資する都市施設の整備
- 人権福祉センターや基幹集会所など、地域コミュニティの場となる都市施設の利用促進
- 観光振興や地域コミュニティの活性化等に向けた都市公園の活用
- 産業振興・雇用促進に資する施設の整備



道の駅三矢の里あきたかた 出典：安芸高田市HP

(参考) 分野別方針 | 交通

○交通については、日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築や、市内外の交流を促進する交通ネットワークの強化に向けた取組を行います。

■ 交通に関する現状・問題点

公共交通について

- 鉄道や路線バス以外に、自家用有償旅客運送、デマンド型区域乗合を含めた様々な手段で地域公共交通を分担している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性があり、地域住民の足を引き続きカバーし続けることが求められる。

道路について

- 大阪府と山口県を結ぶ中国自動車道が横断しており、美土里町に高田ICがある。
- 大竹市と三次市を結ぶ国道433号が美土里町、高宮町を通過している。
- 広島市と島根県松江市を結ぶ国道54号が八千代町、吉田町、甲田町を通過している。

■ 交通に関する本市の取組

- 平成30年に地域公共交通網形成計画を作成し、「みんなが使いやすい公共交通があるまち あきたかた」を実現するための基本方針を定めている。
- 広島県により、東広島高田道路（向原～吉田間）の整備が進められている。

■ 交通に関する取組方針

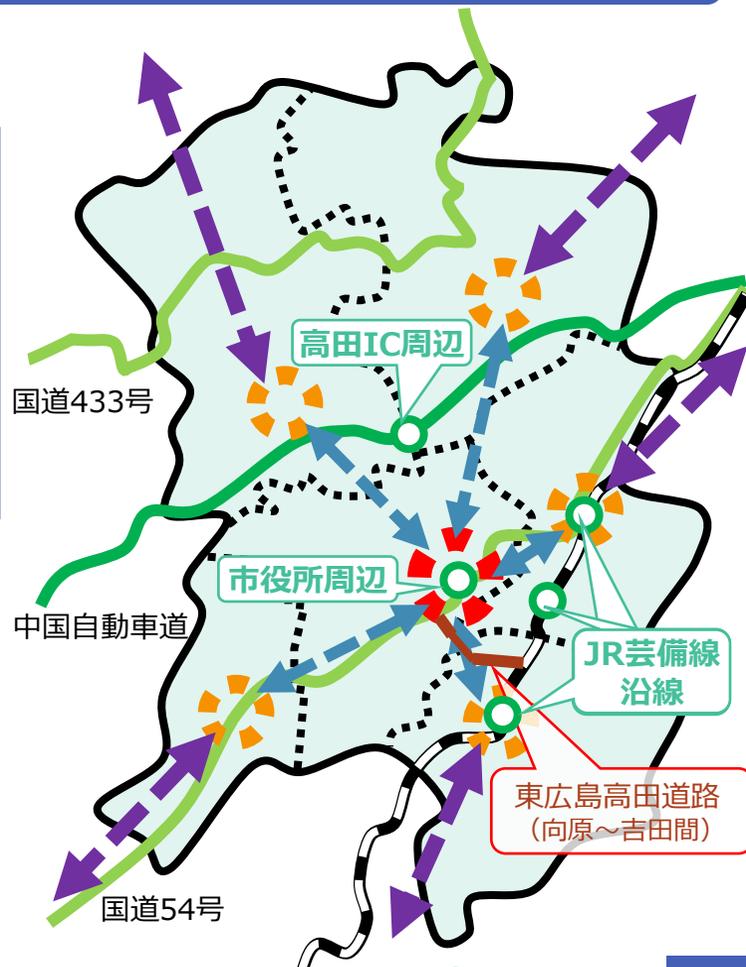
快適な生活を支える交通ネットワークの構築

日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築

- 地域拠点・中心拠点へのアクセスの確保
- 中心・地域拠点間の往来がしやすい公共交通サービスの構築
- 交通弱者や公共交通空白地にも対応した柔軟性のある公共交通サービスの提供
- 効率的な事業運営

市内外の交流を促進する交通ネットワークの強化

- 広域移動を担う幹線道路網の整備・充実
- 地域内道路の整備、都市活動を支える道路の長寿命化
- 交通結節点の機能維持・強化
- 拠点へのアクセス改善



(参考) 分野別方針 | 都市環境・景観

○都市環境・景観については、コンパクトなまちづくりによる生活利便性の向上や、里山や農村をはじめとした良質な自然環境の保全・維持、伝統文化の保存・継承、トップスポーツの維持等による観光振興を推進していきます。

■都市環境・景観に関する現状・問題点

- 市全体で約3割の住民が居住環境に不満があり、公共施設、医療施設、商業施設等の都市機能の充実が求められている。
- 自宅周辺に欠かせない施設として、約9割の住民がスーパー・コンビニ等を挙げているが、実情としては、約5割が居住する町外または安芸高田市外で日常の買い物をしている。また、買回り品の買い物は安芸高田市外で行う方が5割以上である。
- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度が低下している。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

■都市環境・景観に関する本市の取組

- 平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、神楽や毛利元就をはじめとする歴史・文化や豊かな自然、農産物、スポーツを活用した事業の推進を定めている。
- また、第2次安芸高田市環境基本計画では、環境保全に関する基本的な方針を示している。

■都市環境・景観に関する取組方針

「住み続けたい」「訪れたい」と思える環境の形成

コンパクトなまちづくりによる生活利便性の向上

- 都市機能の適正配置、ニーズに応じた商業機能の強化
- 日常移動を支える持続可能な公共交通サービスの構築
- 高齢者や障がい者をはじめとした社会的弱者を含む、誰もが快適に活動できる生活基盤の整備

良質な自然環境の保全・維持

- 森林や河川等の維持・管理
- 省エネルギー機器や低公害設備、再生可能エネルギーの導入推進
- ごみの減量化、資源ごみの再生利用の推進
- 生産性の高い農業経営環境の整備及び担い手の確保

地域資源を活かした観光振興

- 伝統文化の保存・継承
- 里山をはじめとした自然と触れ合う場の整備
- トップスポーツの振興
- 地域資源を活かした観光商品・プログラム等の開発推進



ひろしま安芸高田神楽 出典：安芸高田市HP

○防災については、安全・安心して暮らせるための、災害に強い都市基盤整備や、ソフト対策の充実を図ります。

■ 防災に関する現状・問題点

- 各地に浸水想定区域が広がっており、特に吉田町及び甲田町では広範囲が浸水想定区域となっている。高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
- 土砂災害警戒区域が市内各地に点在しており、特にJR沿線において広範囲に広がっている。土砂災害警戒区域及び特別警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。
- 浸水想定区域・土砂災害警戒区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

■ 防災に関する本市の取組

- 安芸高田市地域防災計画を毎年策定・改定し、災害予防、災害応急対策、災害復旧についての計画を定めている。
- 特に、震災対策、南海トラフ地震対策については、それぞれ「震災対策編」「南海トラフ地震防災対策計画」を定めているほか、水害対策については安芸高田市水防計画を策定し、各事象に対する具体的な対応方針について規定している。

■ 防災に関する取組方針

だれもが安全・安心に暮らせる都市環境の維持

災害に強い都市基盤の整備

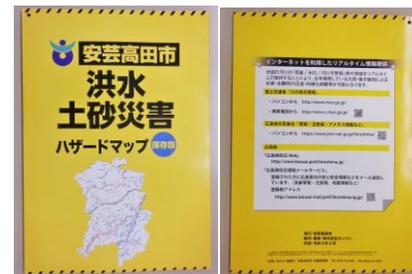
- 密集住宅市街地等の防災性向上
- 大規模盛土造成地の耐震化
- 指定避難所の防災拠点整備
- インフラ設備の耐震化・長寿命化の推進



防災拠点を持つ道の駅 出典：国土交通省HP

安心できる暮らしのためのソフト対策の充実

- 浸水、土砂災害等の災害リスクの低い区域への居住の誘導
- 災害ハザードマップ等に基づくリスクの周知・啓発
- 国や県、周辺市町村等との連携による災害対応体制の拡充
- 自主防災組織や避難の呼びかけ体制の強化
- 避難所におけるプライバシーの確保への配慮等を通じた避難行動の促進
- 防災訓練の充実



洪水土砂災害ハザードマップ

(参考) 分野別方針 | 地域活性化

○地域活性化については、人と人のつながりを基軸としたまちづくりの実現に向け、地域コミュニティ活性化や雇用促進に関する取組を推進します。

■ 地域活性化に関する現状・問題点

- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性がある。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

■ 地域活性化に関する本市の取組

- 旧来のコミュニティが図られてきた大字単位や小学校区単位を主な範囲として、市内に32の地域振興組織と6つの連合組織が設置されており、住民と行政の対話を基礎とした協働のまちづくりを推進している。
- また、平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、「担い手づくり」「産業づくり」「ファンづくり」を3つの基本戦略とし、市民とともに地域活性化や産業振興を図ることとしている。

■ 地域活性化に関する取組方針

人と人のつながりを基軸としたまちづくりの推進

地域コミュニティの活性化

- コミュニティ形成の場としての中心拠点・地域拠点の活用
- 地域づくりに関する情報提供や懇談会等を通じた、地域振興組織による地域づくりに対する行政支援の充実
- 集会施設の維持・整備
- 地域振興組織と行政の協働による地域づくりの推進
- 地域おこし協力隊等の外部人材の受入
- UIターンや二拠点居住の希望者への情報提供
- 男女共同参画・多文化交流の推進



地域振興組織の区域図

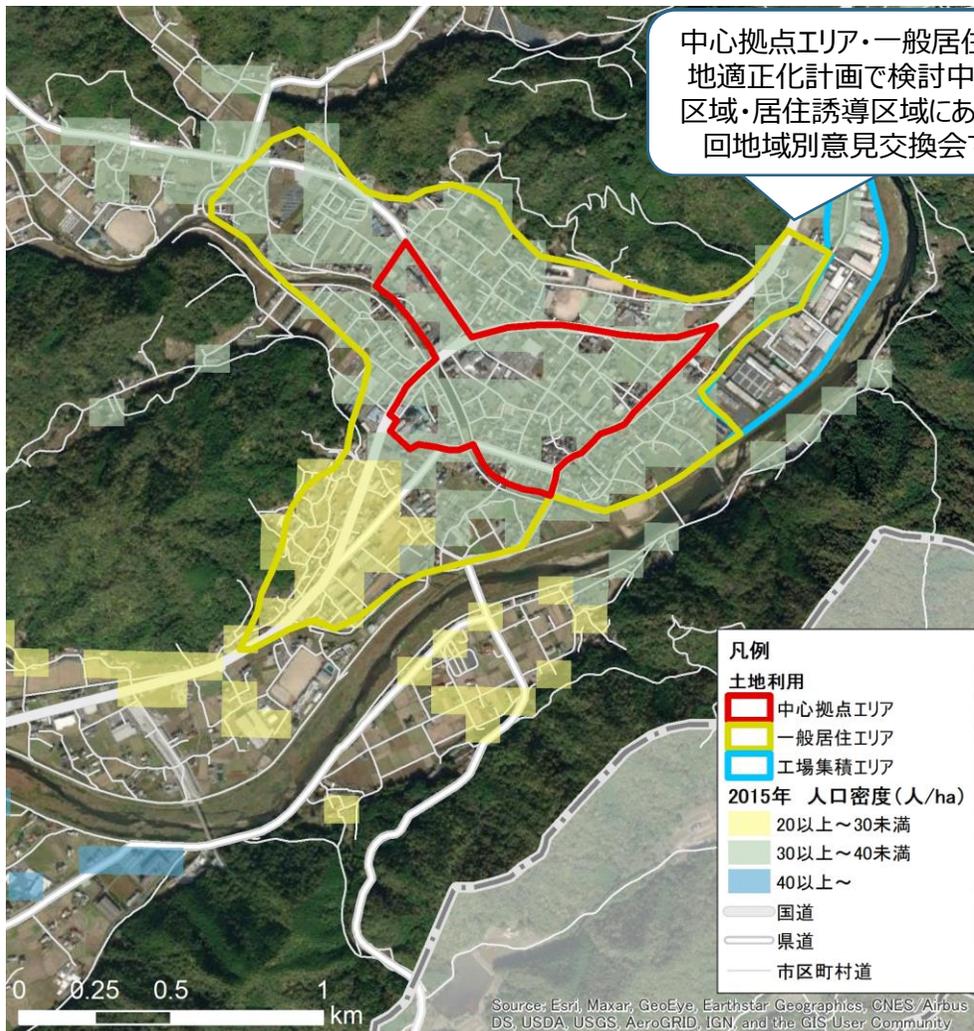
市内で暮らしていくための雇用の場の確保

- 工業団地や中心拠点・地域拠点をはじめとした企業誘致
- 遊休農地の低減や新規就農支援、スマート農業等の推進
- サテライトオフィスの整備・活用
- 商店・企業の活性化や地域産業の育成支援
- スタートアップや地域発のイノベーション創出に向けた支援

(参考) 地域別構想の考え方 | 吉田町

【エリア設定の考え方 (市役所周辺)】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ

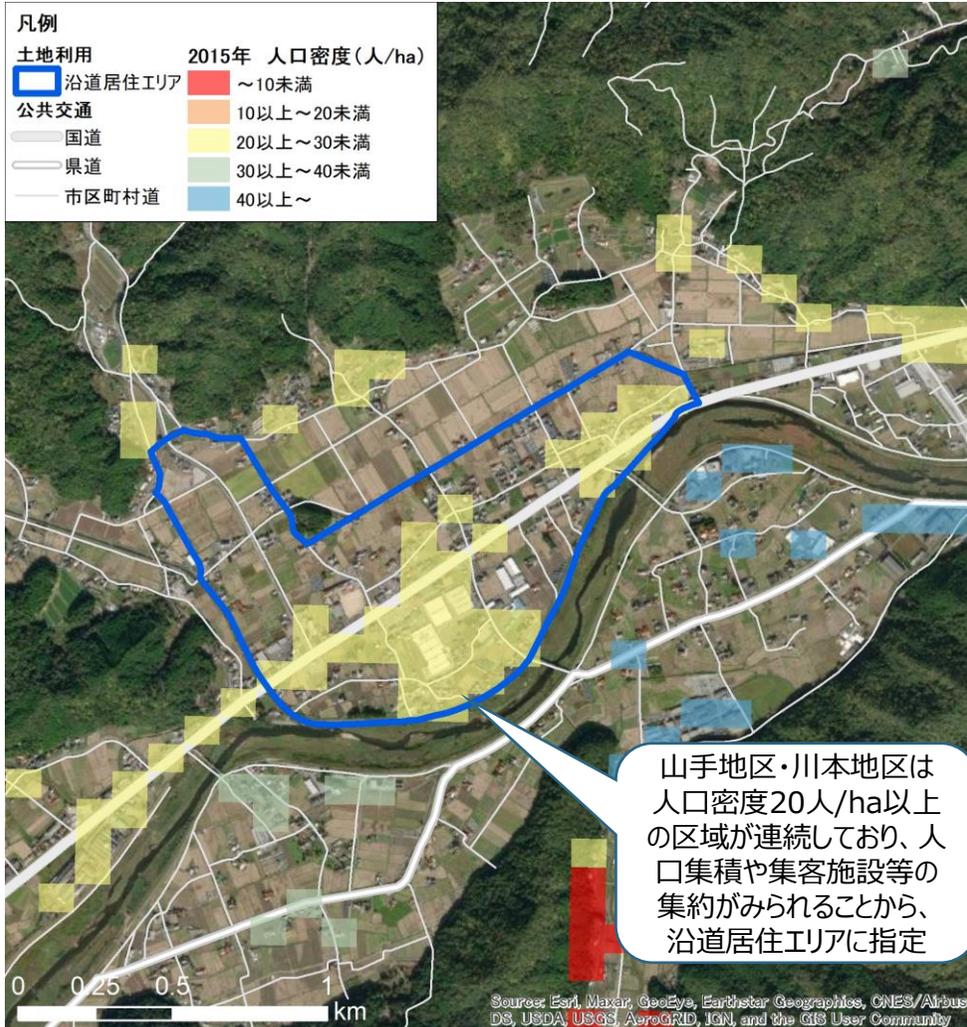


※吉田町の一般居住エリアの範囲については、立地適正化計画で定める居住誘導区域の範囲にあわせて見直しの可能性があります。

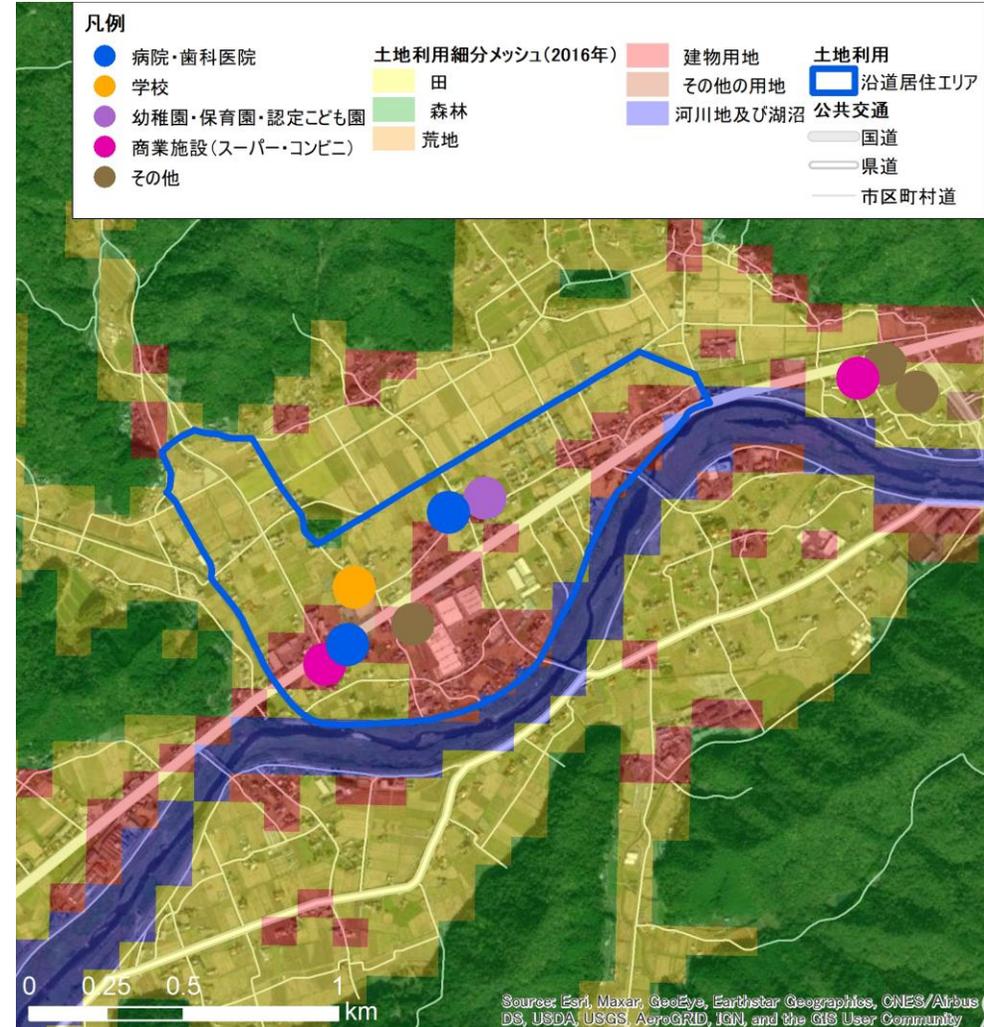
4. 地域別構想の考え方 | 吉田町

【エリア設定の考え方（山手地区・川本地区）】

■ 人口密度メッシュ（H27）との重ね合わせ



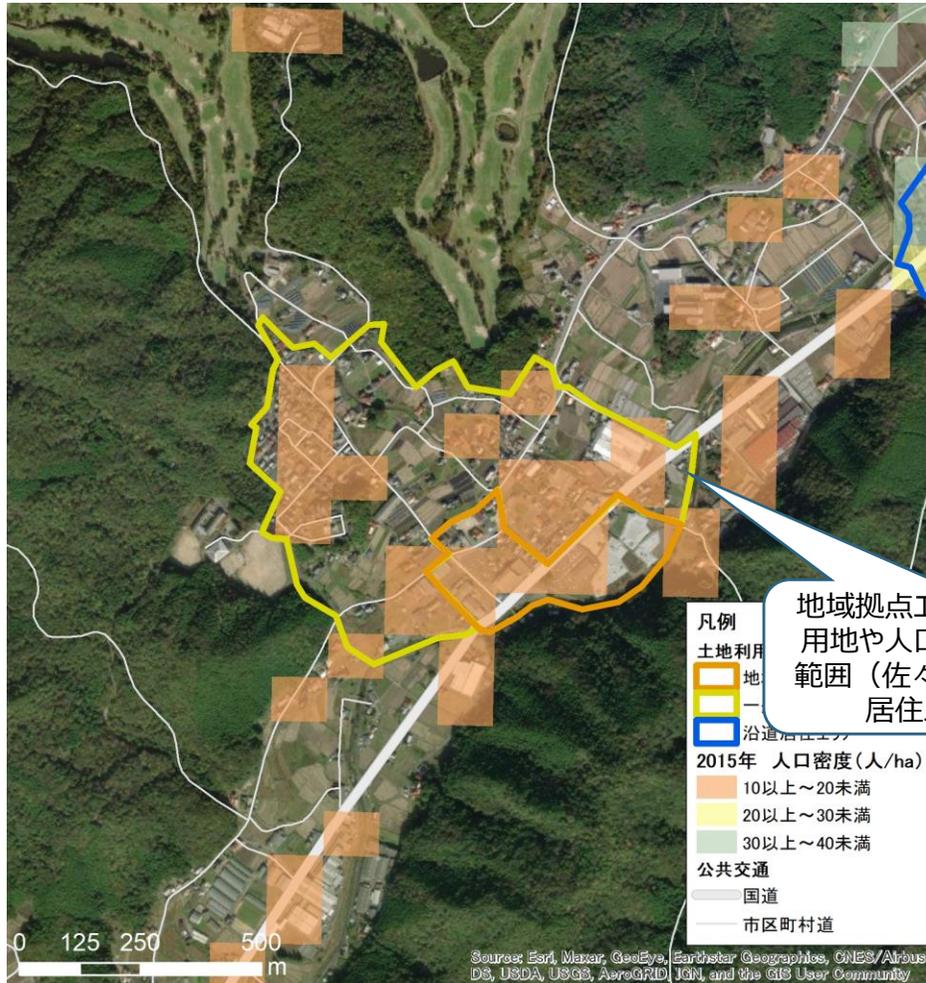
■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



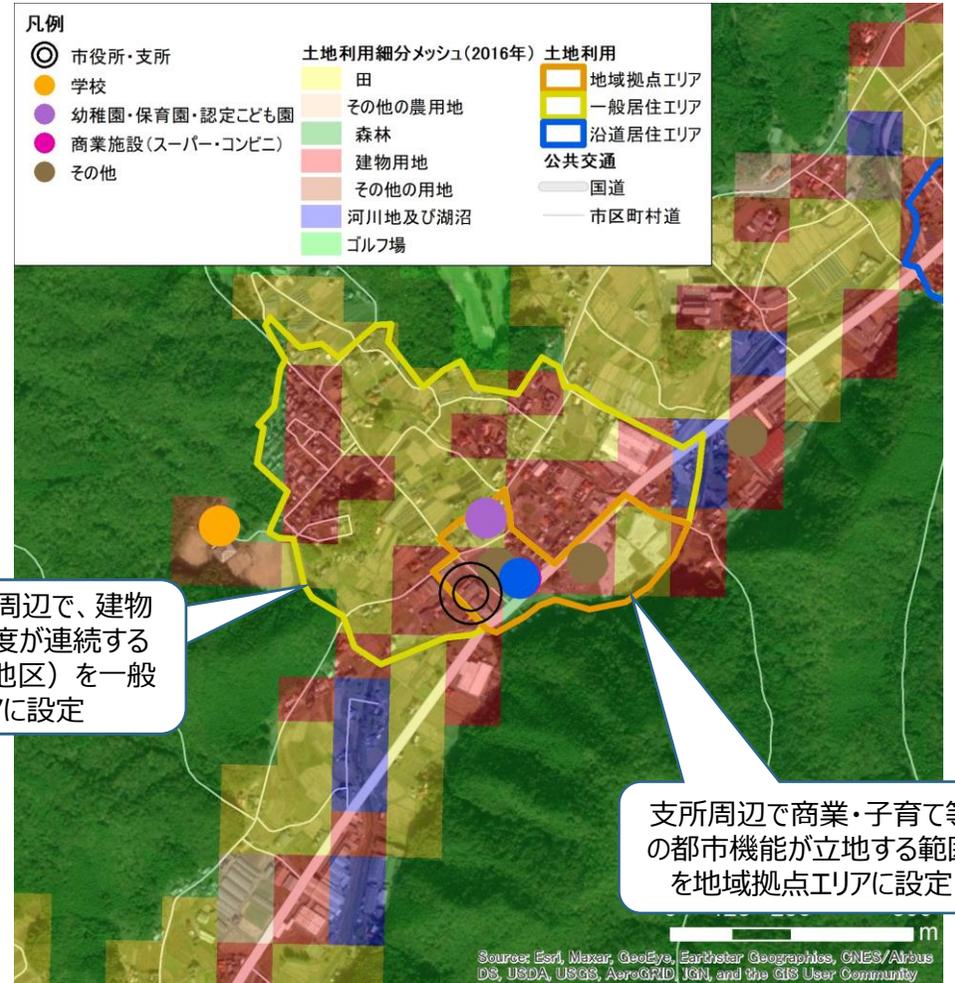
(参考) 地域別構想の考え方 | 八千代町

【エリア設定の考え方（八千代支所周辺）】

■ 人口密度メッシュ（H27）との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



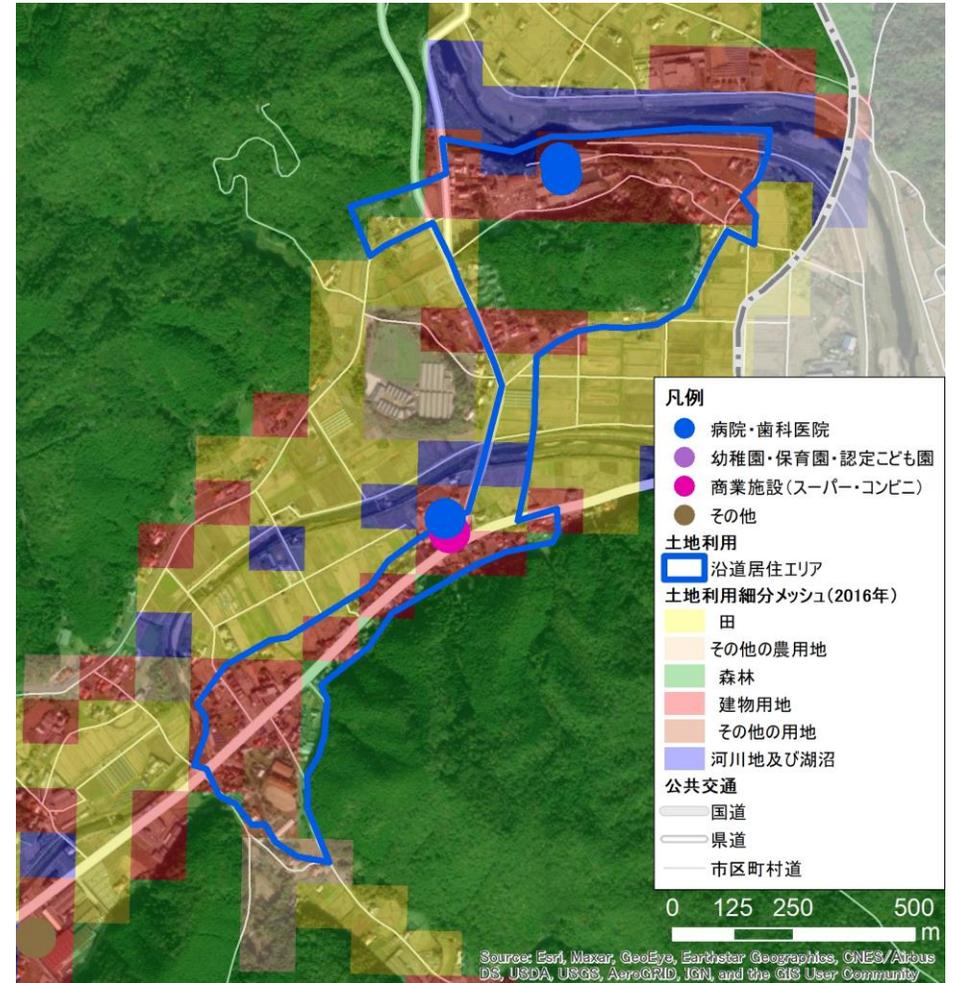
(参考) 地域別構想の考え方 | 八千代町

【エリア設定の考え方 (勝田地区)】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



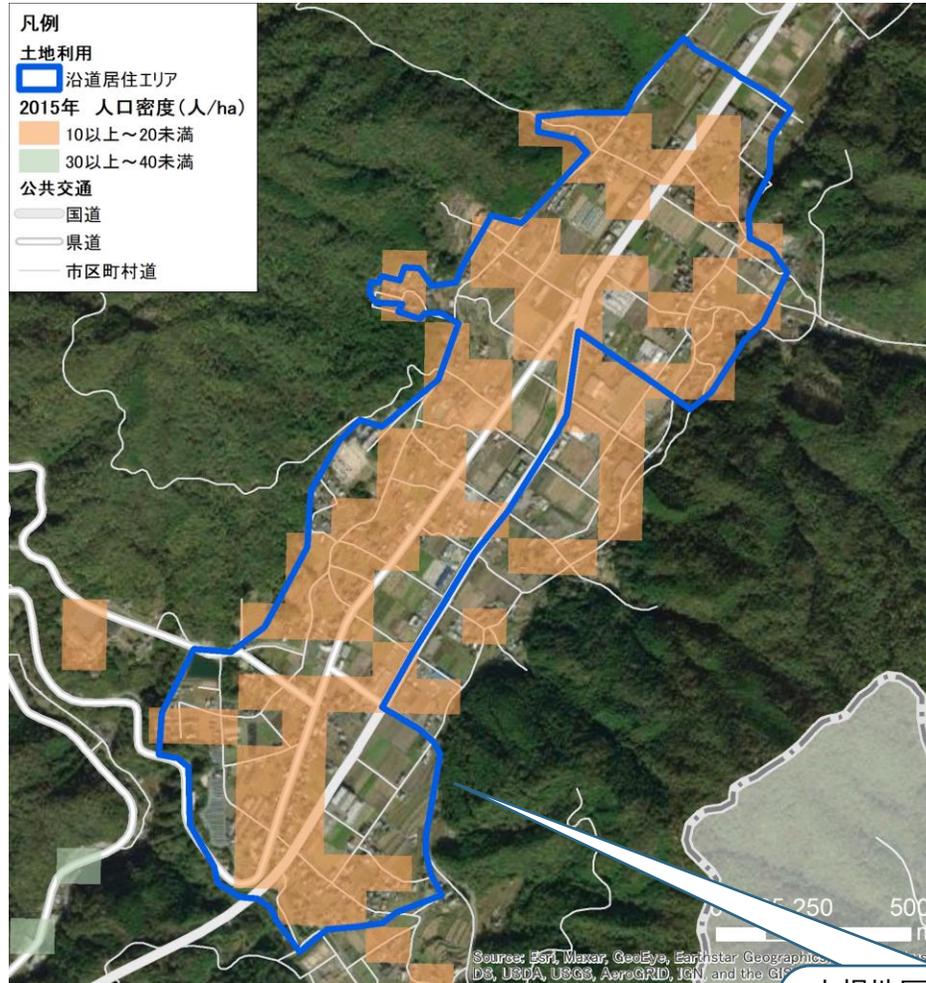
■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



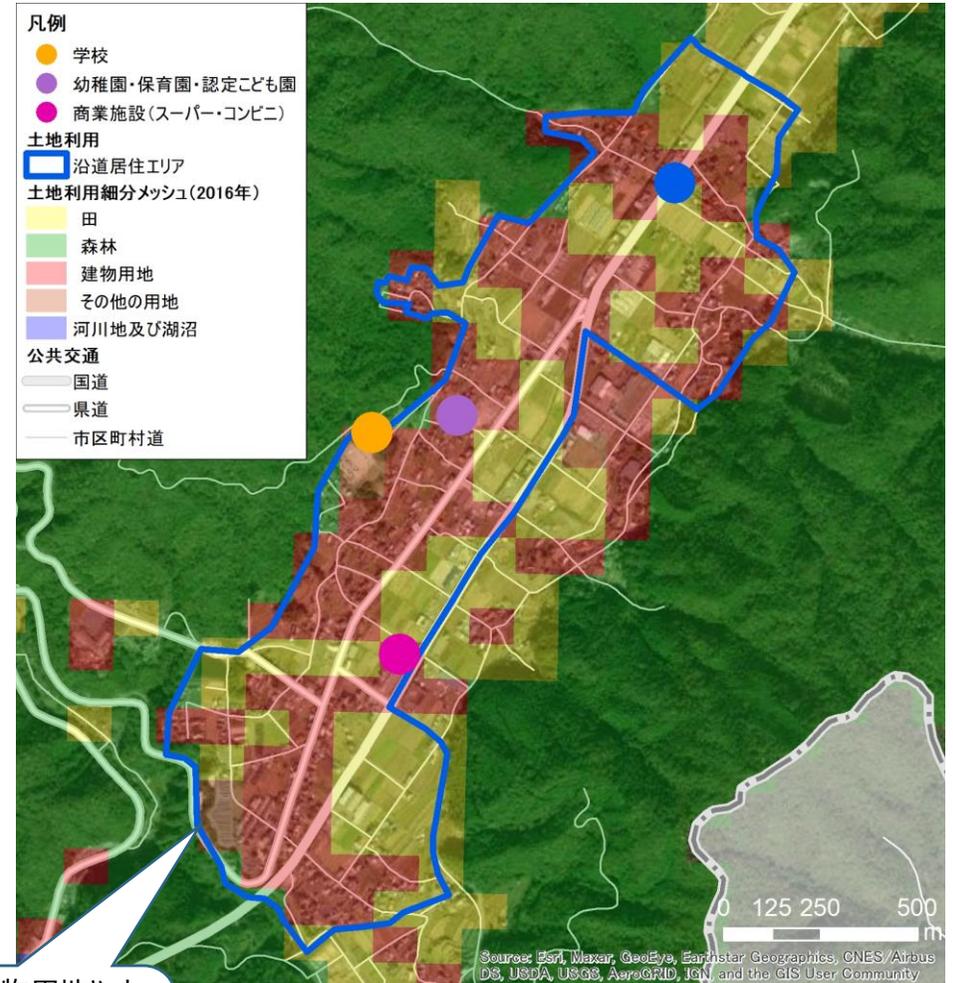
(参考) 地域別構想の考え方 | 八千代町

【エリア設定の考え方（上根地区）】

■ 人口密度メッシュ（H27）との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



上根地区は建物用地や人口密度が広範囲で連続しているほか、商業・子育て等の施設が立地しているため、沿道居住エリアに設定

(参考) 地域別構想の考え方 | 美土里町

【エリア設定の考え方】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



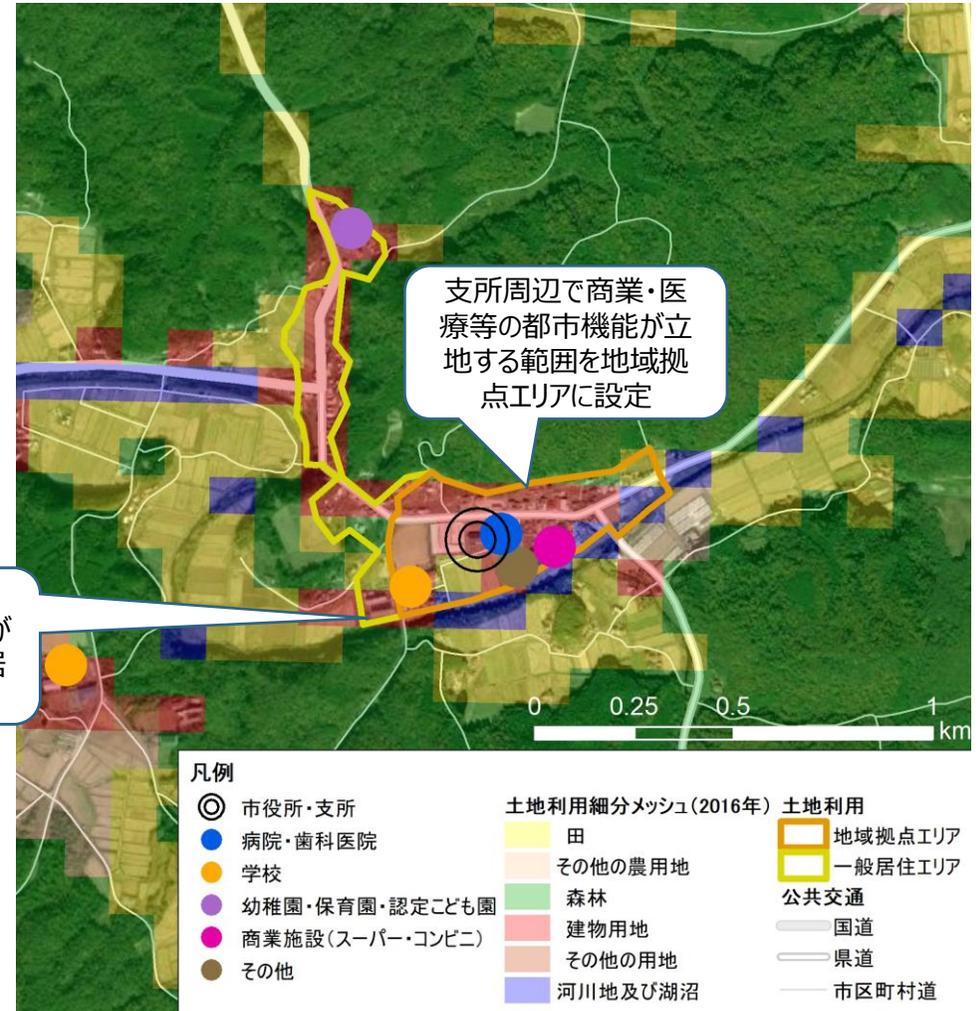
(参考) 地域別構想の考え方 | 高宮町

【エリア設定の考え方（高宮支所周辺）】

■ 人口密度メッシュ（H27）との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



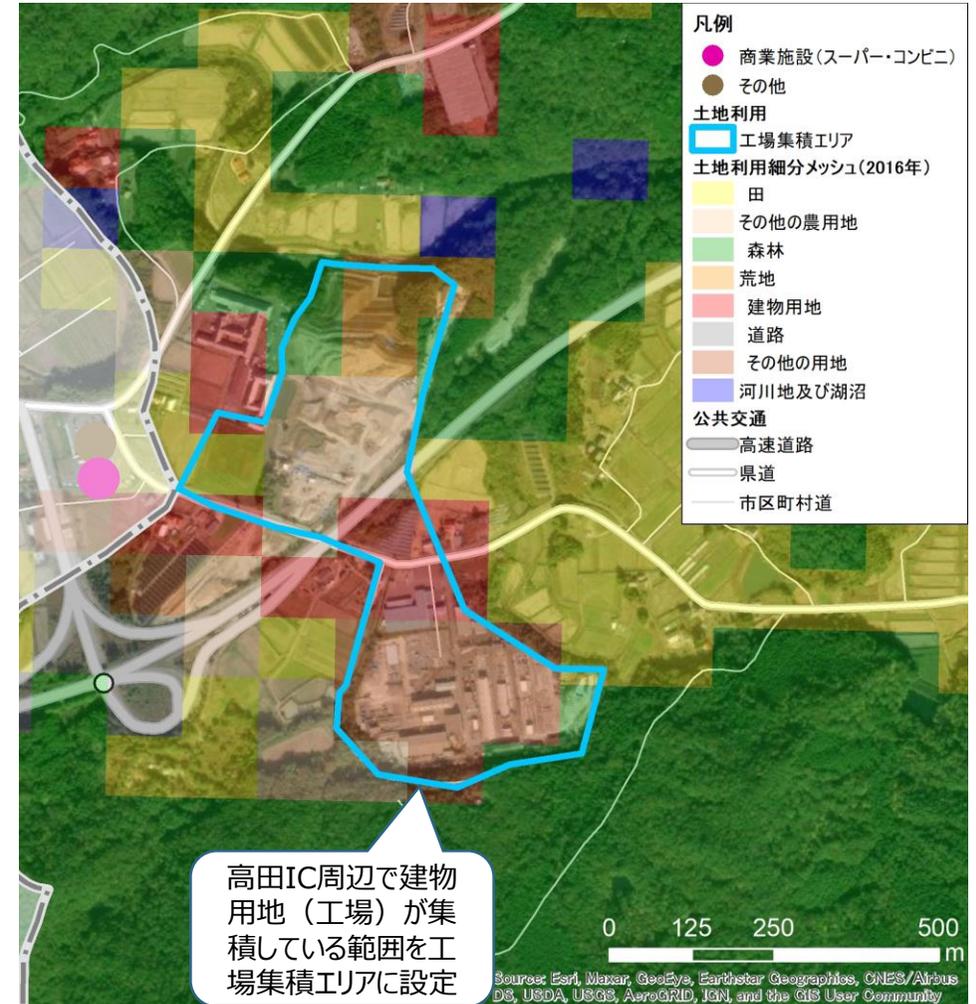
(参考) 地域別構想の考え方 | 高宮町

【エリア設定の考え方 (高田IC周辺)】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



(参考) 地域別構想の考え方 | 甲田町

【エリア設定の考え方 (甲田支所周辺)】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



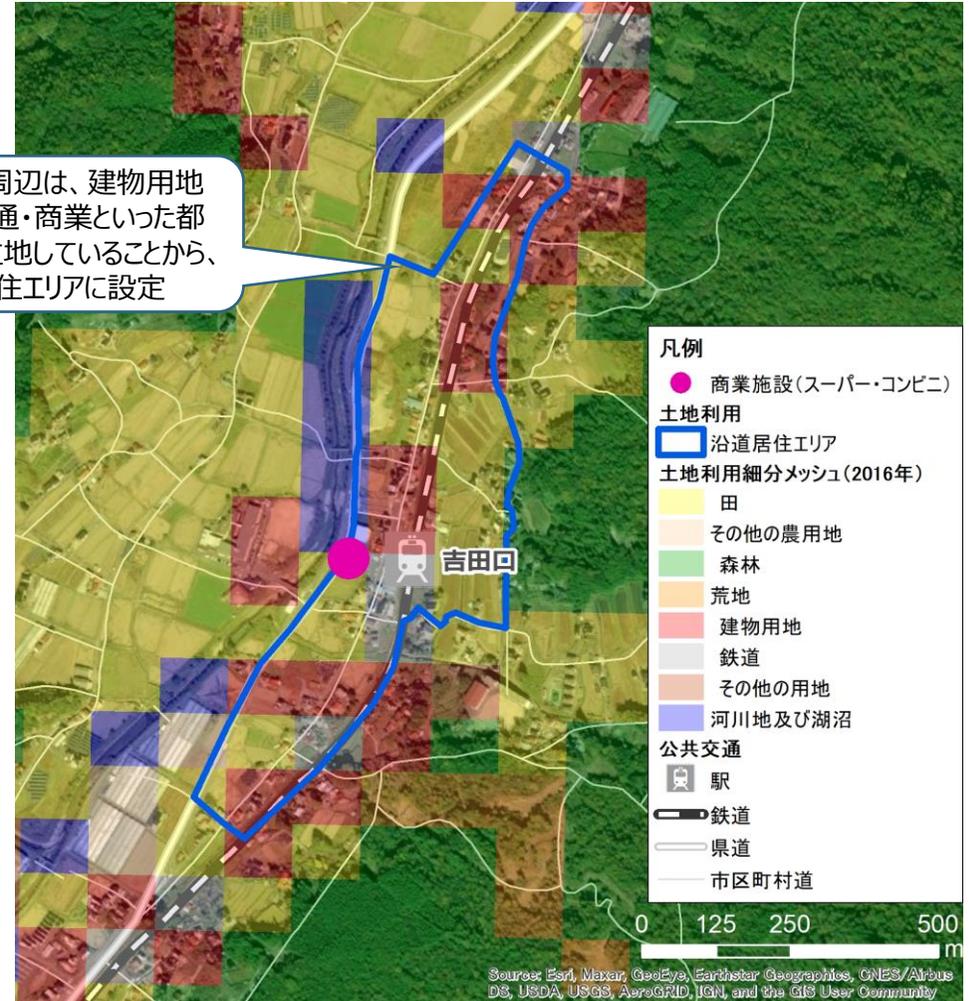
(参考) 地域別構想の考え方 | 甲田町

【エリア設定の考え方 (吉田口駅周辺)】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



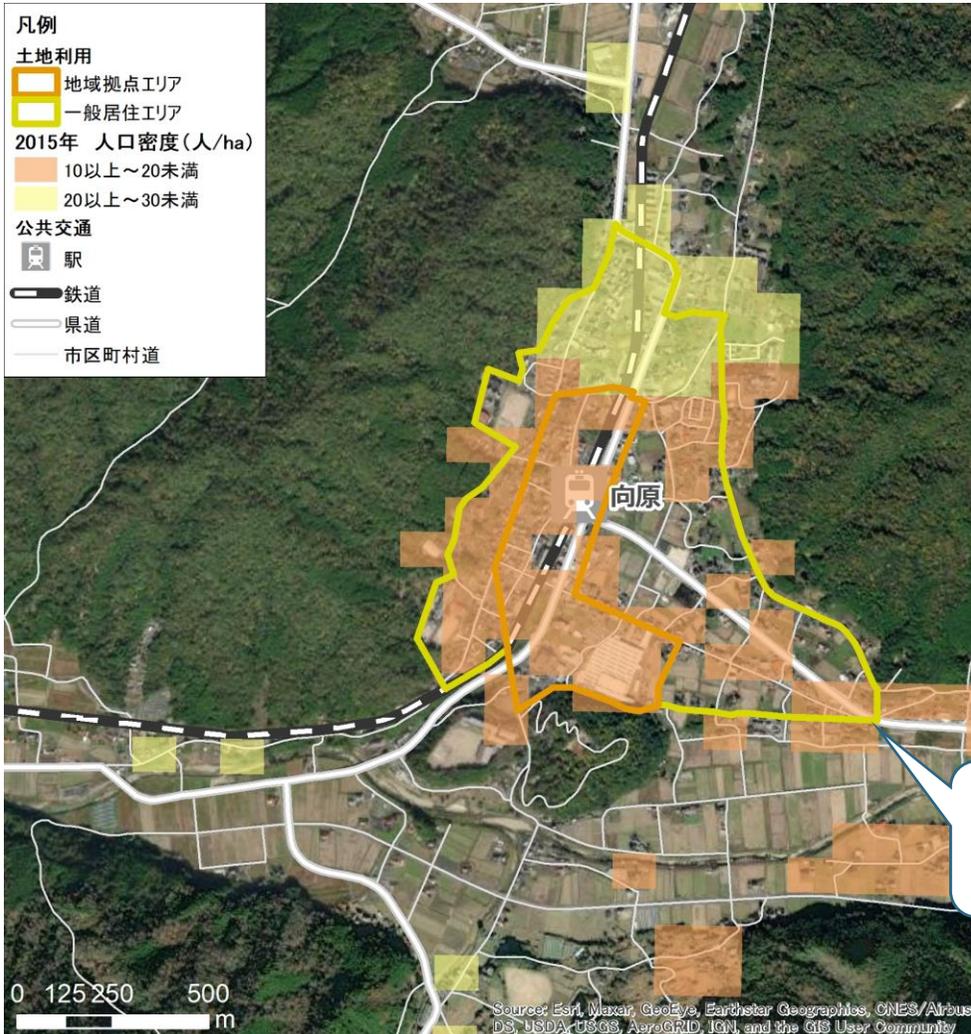
■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



(参考) 地域別構想の考え方 | 向原町

【エリア設定の考え方】

■ 人口密度メッシュ (H27) との重ね合わせ



■ 土地利用細分メッシュとの重ね合わせ



地域拠点エリア周辺で、建物用地や人口密度が連続する範囲を一般居住エリアに設定

支所周辺で商業・医療等の都市機能が立地する範囲を地域拠点エリアに設定